別添資料３

令和５年度（令和４年度事業実施分）

足立区文化・読書・スポーツ推進委員会
評価報告書

令　和　５　年　９　月

足立区文化・読書・スポーツ推進委員会

文化芸術部会の助言総括

１　対象施策

施策 3-1 文化財・文化遺産を調査し、保存・活用する　…5 事業
施策 4-1 足立区の文化的な魅力を効果的に情報発信する　…5 事業
施策 4-2 連携及び交流の機会を充実し、文化芸術の推進を図る　…4 事業

２　令和５年度文化芸術部会からの助言総括

本部会では、上記施策の「重点項目の推進のために何ができるか」をテーマに掲げ検討してきた。これらの論点を中心に報告する。このような具体的な検討と同時に、部会では常に「足立区民の文化芸術に対する誇りとは何か？」という根本的な問いかけがあった。結論が出ているわけではないが、施策の検討の背景として、今後もこの問いかけを継続していきたい。そこから「足立区民が誇りに思う、足立区独自の文化芸術のスタイル」が生まれてくるのではないかと考えている。

（１）文化資源の次世代への継承

足立区独自の歴史・文化の調査が進み、その成果が順調に公開されている。特別展「琳派の花園」「あだちの拓本」「足立の学童疎開」では、述べ 11,293 人の来場者があり、「足立区の文化財」のサイトでも、「足立史談」、「文化財デジタルマップ」などで詳しく調査結果が紹介されている。郷土博物館のサイトも「おうちミュージアム」「ビビビ美アダチ」「バーチャルツアー」など非常に充実している。

区文化財の保存と利活用に関して、計画的に保護する仕組み作りに期待したい。特に、伝統行事の映像化や、古民家のリノベーションなどの好事例を、メディアなどを積極的に使って区外へも紹介してほしい。子ども達が取り組みやすい、外国人が参加しやすい「文化の継承」についても考える必要がある。

ア　貴重な文化資源を活用した、新しいテーマ性のある企画展の開催を期待する。
イ　足立の歴史を知るイベントの計画的な開催（例えば「外国人旅行者を対象とした企画」のような、新しい視点から発想された企画）を期待する。
ウ　小学校・地域学習センターへのアウトリーチの充実を期待する。

（２）連携や交流の創出によるプラットフォームの形成

「仲町の家」や「コンサート in ミュージアム」は、足立区独自の文化施設として機能している。藝大連携事業のアウトリーチ・コンサート「六町ミュージアム・フローラ」など、質の高いコンサートの継続を評価したい。「コンサート in ミュージアム」は区内 5 施設を使ったユニークな企画だが、それぞれの施設が年間一回の企画なので、例えば「１日の内に５施設同時開催（各施設毎に異なるスタイ

ルの音楽プログラムを短時間で数回)」区民が普段関心の無い音楽ジャンルを体験する機会になるような企画があっても良いのではないか。アートプロデュースから発想された、このような新しい企画を期待する。

６大学による連携の取り組みとして、「夢かなえよう。with あだちの６大学」などが実施されており、区内には17,000人の大学生が在籍している。今の足立区には、大学を活用することで文化芸術を発展させる大きな可能性があるのではないか。

新しい企画に継続性を持たせるために、活動支援やスポンサーを探す仕組みも必要である。これまでのように足立区が施策として提供するだけでなく、将来的には、足立区から生まれ継続して発信されるような、新しい文化芸術への支援が期待される。

プラットフォームの形成は手段であって目的ではない。原点に戻って、何を目指すべきかの検討が必要である。例えば、「連携」と「交流」の成果を分けて考えることで、よりプラットフォームの役割が明確になるのではないか。

ア　大学を活用した連携事業の発展に期待する。

イ　文化芸術交流会（足立シティーオーケストラ、足立吹奏楽団、足立区民合唱団の音楽３団体）の開催によって、足立区に新たな音楽文化が生まれることを期待する。

（３）情報の集約及び効果的情報発信の強化

アナログとデジタルのような異なる情報の活用は、年齢よりも分野の違いによることが報告されている。情報発信は、分析を元にきめ細かく行われなければならない。また、情報の収集については、用語の内容が発信者と受信者でギャップの無いように共有されているか、確認が必要である。区民の文化芸術のイメージは「琳派の花園」のような企画であると誤認しているのではないか。足立区は、地域学習センターの催し物のような、日常的な文化芸術の提供も数多く行ってきた。区民に、これらも重要な文化芸術であるというアピールが必要である。

ソーシャルプラットフォームは日々進化している。区民が必要とするデジタル情報に到達できるように、区が提供する文化芸術に関する情報発信ページの効果的なデザインについても検討をお願いしたい。

ア　「誇り」「満足度」「文化芸術」などの言葉の解釈には大きな幅があるので、区民へのアンケートでは、定義をより丁寧に説明することが必要である。

イ　文化芸術の推進につながる普及活動では、「関心喚起」や「行動生起」へ繋がる「きっかけ」が重要である。効果的な「きっかけづくり」が期待される。

文化芸術部会長
西岡　龍彦（東京藝術大学名誉教授）

文化芸術計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	１	生涯を通じて文化芸術との出会いを創出する
施策名	１－１	文化芸術の魅力や楽しさに「気づく」機会を創出する
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　地域文化課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

文化芸術との出会いは、実際に触れ感じることから始まる。文化ホールや劇場での舞台鑑賞、イベントや地域ごとの文化施設での取り組みなどを拡充することにより、誰もがいつでも文化芸術を楽しめる機会を創出する。

２　成果指標

※R7は目標値

指標名①	足立区は文化芸術に親しめるまちと感じている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術に親しめるまちであると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	30.3%	－			(80.0%)
目標値（R7）	80.0%			－	37.9%	－			

指標名②	足立区の文化芸術事業を評価している区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区の文化芸術事業を評価できると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	25.8%	52.4%			(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	－	－	32.3%	65.5%			

指標名③	文化芸術に関心を持っている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 文化芸術（観たり、聴いたり、創作すること）に関心がある区民の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	65.6%	実績値	65.6%	－	67.0%	92.6%			(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	－	－	83.8%	115.8%			

指標名④	過去１年間に文化芸術鑑賞をした区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 過去１年間に、文化ホールや美術館、博物館、劇場、映画館などに出かけて、鑑賞した区民の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	54.5%	実績値	54.5%	－	30.3%	66.1%			(70.0%)
目標値（R7）	70.0%	達成率	－	－	43.3%	94.4%			

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	6	1	0	1	0	2	10
%	60%	10%	0%	10%	0%	20%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値　R4年度未実施

指標②実績値（25.8%→52.4%）、指標③実績値（67.0%→92.6%）、指標④実績値（30.3%→66.1%）は3計画アンケート未実施のため、R4年度は区政モニターアンケートを実施し、それぞれR3年度を上回った。

【要因分析】

ア　西新井文化ホールやシアター1010など施設では、コロナ禍の影響による定員制限などが緩和され、多くの来場者を迎えることができた。また、R4年度は郷土博物館の文化遺産調査特別展など区制90周年を冠したイベント等を多数実施し、足立区の文化芸術事業が多く区民の目に触れ、評価の割合増につながったと考えられる。

イ　「文化芸術に関心を持っている区民の割合」の増については、イベント制限の緩和やデジタルの普及により、文化芸術がより身近に感じられるようになったことの結果であると分析する。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

ア　シアター1010鑑賞事業では「千住落語会　柳家喬太郎独演会」、「東儀秀樹　新春プレミアムステージ」、仲代達矢氏の舞台「無名塾『バリモア』」などを開催し施設全体で219,480名の来場者を迎えた。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

ア　シアター1010で実施している「文化のちから体験会」では、50年代以降を対象とした「アイドルコンサート」を実施し、今まで劇場に足を運んだことのない区内外の方にも、文化芸術と出会う機会を創出する。

【中長期の取り組み】

ア　今後とも、大人向けの体験会では対象年齢等を明確にしながら新たな関心を生み出すきっかけを創出していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

「日常の生活の中で触れる文化芸術の事業」を継続することも必要であるという助言に対しては、令和４年度に実施したストリートピアノを継続展開していくとともに、区民が身近に文化芸術に触れるアトリウムコンサートを再開した。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	4	4

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　3年に1回実施する3分野計画アンケートの代わりに、区政モニターアンケートで補足したということだが、単純比較できるものではない。ただし、3分野計画アンケートは毎年取っても経過が見えてくるものではないため、今後の分析の仕方を検討してほしい。

イ　デジタル技術の活用、区制90周年を冠とした事業の実施など、キャッチ―で目に触れる事業の展開は評価できる。今後、身近で気軽に文化芸術の魅力や楽しさに「気づく」ような、きっかけづくりの事業展開にも期待する。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　今まで劇場に行くきっかけがなかった方が興味関心を持つことは、文化芸術の裾野を広げていくことにつながるため期待する。。

イ　年代毎にニーズを捉えた話題性の高い公演を企画していくことは、幅広い年代の方が文化芸術に触れるきっかけに繋がるものであり評価できる。

(3)　「評価の反映状況」への評価

ア　ストリートピアノやアトリウムコンサートは、幅広い年代の方が身近で気軽に参加するきっかけづくりにつながるものであり、評価できる。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	―	―	―

5　推進委員会による助言（令和５年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への助言

(2)　「今後の方向性」への助言

重点項目外の施策であるため、令和5年度評価（令和4年度実施事業分）は対象外です。

(3)　「評価の反映状況」への助言

6　推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和●年●月記載）

文化芸術計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	１	生涯を通じて文化芸術との出会いを創出する
施策名	１－２	子どもの成長に応じた文化芸術事業を提供する
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　地域文化課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

未来ある子どもたちが人生を楽しく心豊かに生きていくために、より多くの文化芸術に触れる機会が必要である。子どもの成長に応じた効果的な文化芸術のアプローチについて、新たに指針を策定し、「楽しさ」や「面白さ」といった心を動かす体験を数多く、かつ継続的に経験してもらう事業を提供していく。

創造力・想像力、思考力、コミュニケーション能力など現代社会で生きていくために必要な力を育むとともに、文化芸術の新たな担い手の育成にもつながることから、長期的な展望を持って取り組んでいく。

２　成果指標

※R7は目標値

指標名①	足立区は子どもたちが文化芸術を楽しめるまちと感じている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区は子どもたちが文化芸術を楽しめるまちであると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	35.2%	－			(90.0%)
目標値（R7）	90.0%	達成率	－	－	39.1%	－			

指標名②	足立区の子どもに対する文化芸術事業を評価している区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区の子どもに対する文化芸術事業を評価できると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	30.8%	39.2%			(90.0%)
目標値（R7）	90.0%	達成率	－	－	34.2%	43.6%			

指標名③	過去１年間に文化芸術鑑賞をした子どもの割合								
指標の定義	３計画アンケートによる調査を実施 過去１年間に、学校行事以外で文化ホールや美術館、映画館などに出かけて、鑑賞した子どもの割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	89.0%	実績値	89.0%	－	57.6%	－			(100.0%)
目標値（R7）	100.0%	達成率	－	－	57.6%	－			

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	7	1	3	0	0	1	12
%	58%	8%	25%	0%	0%	8%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値　R4年度未実施。

指標②実績値（30.8%→39.2%）は3計画アンケート未実施のため、R4年度は区政モニターアンケートを実施し、R3年度を上回った。

指標③実績値　R4年度未実施。

【要因分析】

ア　西新井文化ホールや学習センター事業など、感染症対策を徹底しながら定員を緩和して実施することが可能となった。多くの子どもたちが成長過程に応じて音楽や美術などのイベントに参加することができた。

イ　令和4年度から芸術鑑賞体験事業を開始し、全区立小学校5年生を対象に劇団四季による「ライオンキング」「美女と野獣」の観劇を実施した。参加者アンケートでは、劇の内容に関心を寄せるもののほか、「ミュージカル俳優を目指したいと思った」「お芝居の仕事をしたいと思った」など舞台に対して強い興味を示すものもあった。また、参加した子どもたちの95%が観劇後に家族等と感想を話したことから区の子どもに対する文化芸術事業の評価へつながったと考える。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

ア　西新井文化ホールでは感染症対策として、換気、手指消毒、検温、マスク推奨などを行いながら、定員緩和を行った。観覧者数はR3年度の10,944人から19,406人と77%増となった。

イ　伊興遺跡公園の歴史を知るイベントは人数制限や飛沫防止フィルムを設置するなどの対応を行い、3年ぶりの実施となった。参加者数はH30年度の416人から697人へ増加した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

ア　ギャラクシティなどでの子どもの文化体験事業を知ってもらえるよう、イベント時だけではなく、日々の事業やプログラムの強化、また、SNSや動画を活用した周知も積極的に行う。

イ　国立劇場建替え期間中に文楽公演の一部をシアター1010で行うことに伴い、文楽鑑賞教室の無料招待や、文楽入門講座を行うなど、子どもを含む区民が良質な伝統芸能に触れる機会を創出する。

【中長期の取り組み】

ア　文化芸術への興味関心を醸成し、多くの子どもたちが良質な文化芸術に触れる機会を創出する。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

「芸術性の高い公演を子どもたちに提供する事業の継続」への助言に対しては、「芸術鑑賞体験事業」「文化のちから体験会」など、芸術性の高い公演を子どもたちに提供する事業を引き続き提供する。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	4	4

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)「現在の達成状況」への評価

ア　区の子どもに対する文化芸術事業を評価している区民の割合が8.4ポイント上昇しており、区内小学5年生約5千人を対象とした芸術鑑賞体験事業でのミュージカル鑑賞が少なからず影響したと考える。

イ　感染症対策をしながらも途絶えることなく事業を継続したことは評価できる。コロナ感染症の5類移行を踏まえつつ子どもたちの成長に応じた文化事業を提供してほしい。

(2)「今後の方向性」への評価

ア　子どもたちが文化芸術を体験できる「Japan Festa in ADACHI」での取り組みは、子どもの心の豊かな成長につながると考えるため評価できる。ギャラクシティでは大規模改修に伴う休館が予定されているので、今後、継続展開できるよう検討してほしい。

イ　R5年12月開催の文楽公演は、入門講座や公演無料招待を行うことで、貴重な伝統芸能を理解できる機会であり、子どもたちの心豊かな成長へとつながるものと考える。

(3)「評価の反映状況」への評価

ア　子どもの文化的体験は、文科省の調査でも良い影響があると言われている。今後とも、子どもたちが文化芸術へ触れる機会につなげていくことが必要である。

イ　「文化のちから体験会」での、読み聞かせとダンスを融合させた「絵本音楽会ぽっぷ」のような切り口を変えた公演は、子どもたちが興味を持つきっかけづくりであり評価できる。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	―	―	―

5　推進委員会による助言（令和５年８月記載）

(1)「現在の達成状況」への助言

(2)「今後の方向性」への助言

重点項目外の施策であるため、令和5年度評価（令和4年度実施事業分）は対象外です。

(3)「評価の反映状況」への助言

6　推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和●年●月記載）

文化芸術計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	２	区民の活発な文化芸術活動を促進する
施策名	２－１	活動の継続を促す参加・体験の機会を増やす
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　地域文化課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

文化芸術に関する様々な体験や創作活動などを、区民が生きがいの一つとして継続的に行えるように、機会の提供や活動の支援を行っていく。

また、各学習センターにおいて、複合施設という特色を活かし、読書や運動・スポーツ分野の事業と連携することで相互の活動を促進していく。

２　成果指標

※R7は目標値

指標名①	文化芸術関連事業への参加・活動を行った区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 これまで文化芸術に関する創作や表現などを体験するイベントや講座に参加したことがある区民の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	15.7%	実績値	15.7%	－	22.9%	34.9%			(30.0%)
目標値（R7）	30.0%	達成率	－	－	76.3%	116.3%			

指標名②	足立区は参加･体験型の文化芸術事業が多いと感じる区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区は参加・体験型の事業が多いと思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	22.2%	39.7%			(70.0%)
目標値（R7）	70.0%	達成率	－	－	31.7%	56.7%			

指標名③	足立区の文化芸術事業を評価している区民の割合【再掲】（施策1-1）								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区の文化芸術事業を評価できると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	25.8%	52.4%			(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	－	－	32.3%	65.5%			

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	3	0	0	0	0	0	3
%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（22.9%→34.9%）は3計画アンケート未実施のため、R4年度は区政モニターアンケートを実施し、R3年度を上回った。なお、R7年度の目標値（30.0%）も上回った。

指標②実績値（22.2%→39.7%）は3計画アンケート未実施のため、R4年度は区政モニターアンケートを実施し、R3年度を上回った。

指標③は再掲（施策1-1）

【要因分析】

ア　学習センターは、コンサート等の区制90周年関連事業を中心とした対面事業のほか、一部ではオンライン講座も実施するなど、多くの区民に参加機会を提供することができ、指標の実績値増へ貢献した（学習センター事業数：R3年度2,234回⇒R4年度4,029回）。

イ　3分野連携事業として、「読書×スポーツ」に「読書×文化」「スポーツ×文化」のプログラムを開催した。

参加者への動機づけとして、LINE登録者に対する定期配信や対面での声掛けにより関心・行動の維持向上に努め、参加者合計はR3年度の5,954人から2倍以上増加し、12,236人となり、指標の実績増へつながったと考える。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

ア　学習センターでは、コロナ禍をきっかけに、「Zoom体験会」を実施し、オンライン講座の参加方法を広げる工夫を行った。

イ　アートアクセスあだち「音まち千住の縁」では、オンラインでの事業（だじゃれ音楽祭）を継続するとともに、対面でのイベント活動制限が緩和された。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

ア　野村誠「千住だじゃれ音楽祭」では、令和2年に構想した「千住の1010人　from2020年」を千住宿開宿400年にあたる2025年に実施することを視野に入れ、活動を行っていく。

【中長期の取り組み】

ア　3分野連携事業では複合施設のある地域学習センター全館で実施し、区民の文化活動への関心喚起や行動変容につながる事業を展開していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

「幅広い世代への情報発信と活動支援」の「若い世代への文化芸術活動への支援が拡大されることを期待する」との助言については、「東京藝大アーツプロジェクト実習」にて文化芸術の若手コーディネーターの育成を行っていることから、東京藝術大学からアドバイスを得ながら若い世代への支援策を検討する。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	5	4	3

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　3計画アンケートと区政モニターアンケートの違いはあるものの、「文化芸術関連事業への参加・活動を行った区民の割合」はR3年度に比べ12ポイントの上昇、H30年度との比較では約2倍に増加している。今後とも、区民が継続的に参加できる機会の提供を続けてほしい。

イ　3分野連携事業では、LINEのプッシュ通知やスタッフの声かけにより参加者が約2倍になったことは評価できる。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　千住宿開宿400年の事業は、多くの方が身近に区の文化や歴史を感じられる機会であり、単なる過去の振り返りではなく、今の千住をアピールするような事業展開に期待する。

(3)　「評価の反映状況」への評価

ア　「東京藝大アーツプロジェクト」の若手コーディネーター等を活用するなど若い世代への支援策を検討されたい。助言については、支援策の内容を掘り下げ、区ができることを的を絞って検討してほしい。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	―	―	―

5　推進委員会による助言（令和５年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への助言

(2)　「今後の方向性」への助言

重点項目外の施策であるため、令和5年度評価（令和4年度実施事業分）は対象外です。

(3)　「評価の反映状況」への助言

6　推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和●年●月記載）

文化芸術計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	２	区民の活発な文化芸術活動を促進する
施策名	２－２	個人や団体の活動の継続を支援する
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　地域文化課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

個人や団体が定期的に、また継続して活動できるよう、区のサポート機能を強化していく。例えば、区内文化団体との共催・後援により文化活動の活性化を図ることや文化芸術事業への文化芸術振興基金の効果的な活用を進めていく。

また、文化芸術の次代の担い手となる若者や団体が、将来活躍するための最初の一歩となるよう、経験を積む機会を提供していく。

２　成果指標

※R7は目標値

指標名①	足立区は文化芸術活動を行いやすいまちと感じている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術活動を行いやすいまちと思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	21.4%	41.3%			(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	－	－	26.8%	51.6%			

指標名②	足立区は文化芸術活動への支援を十分にできていると感じている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術活動への支援を十分にできていると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	16.3%	31.2%			(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	－	－	20.4%	39.0%			

指標名③	文化芸術に関わる活動をおこなっている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 文化芸術に関わる活動をおこなっている区民の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	12.4%	実績値	12.4%	－	12.1%	16.9%			(30.0%)
目標値（R7）	30.0%	達成率	－	－	40.3%	56.3%			

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	9	1	1	0	0	0	11
%	82%	9%	9%	0%	0%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（21.4%→41.3%）、指標②実績値（16.3%→31.2%）、③実績値（12.1%→16.9%）は3計画アンケート未実施のため、R4年度は区政モニターアンケートを実施し、それぞれR3年度を上回った。

【要因分析】

ア　コロナ禍の制限緩和により多くの活動が活性化している。例えば、音楽3団体の定期演奏会等の観客数は3,031人であり、R3年度の60人から大幅に増加した。また、音楽3団体や足立区文化団体連合会以外に区が共催したR4年度文化事業は9つあり、合計7,797人の来場者があり評価につながったと考える。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

ア　音楽3団体では、基本的な感染症対策に加えて、観客席の前列を使用しないなどの工夫を行い、年間7回全ての演奏会を開催することができた。

イ　将来メジャーでの活躍を目指すアーティストを支援する「エンターテーメントチャレンジャー支援事業（以下えんチャレ）」は区施設のほか、駅や民間施設に申込チラシの設置とSNSでのPRを継続して行い、新たに3団体の登録があった。登録団体は合計12団体となった。

ウ　えんチャレ登録者は自主公演を積極的に開催しており、R4年度は「Road ONE」、「ショッコラン」が無料公演を実施し、のべ約700名来場した。また、登録アーティストが一堂に会する「えんチャレまつり2023」を3年ぶりに開催した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

ア　えんチャレ登録団体を支援するため、無料公演等を実施する際には、広報やチラシ配付を行っていく。

イ　3分野連携事業では、休日に家族連れで訪れる実態に合わせ、休日の体験を契機に平日の継続利用を促す工夫をする。

【中長期の取り組み】

ア　様々な団体の活動は、コロナ禍でかなりの影響を受けたと思われるので、活動回復と今後の文化芸術活動継続を支援する。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

「活動の成果を区外に積極的にアピールすることや、新しい文化芸術への支援」の助言については、障がい者アート展のデジタルアートミュージアム開催時に行ったプレスリリースや地域の伝統行事「じんがんなわ」の動画発信のように、積極的に区内外へ発信していく。また、えんチャレ無料公演の共催などの支援を行い、区民の自発的な文化事業の創出につなげていく。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	4	4

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　各指標はそれぞれR3年度と比べ増加したものの、R7年度目標に対しては約5割であるため、区が団体等の活動支援を行っていることを周知する工夫が必要である。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　3分野連携事業で休日の家族連れ参加者を平日の継続利用に促すことは、文化芸術の裾野を広げる有効な手段であり、評価できる。

(3)　「評価の反映状況」への評価

ア　障がい者アート展のデジタルアートミュージアムや「じんがんなわ」の動画発信など、デジタルを活用した情報発信は区内外に広く発信できるため評価できる。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	―	―	―

5　推進委員会による助言（令和５年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への助言

(2)　「今後の方向性」への助言

重点項目外の施策であるため、令和5年度評価（令和4年度実施事業分）は対象外です。

(3)　「評価の反映状況」への助言

6　推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和●年●月記載）

文化芸術計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	２	区民の活発な文化芸術活動を促進する
施策名	２－３	活動の成果を発揮できるイベントを開催する
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　地域文化課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

個人または仲間と共に作り上げてきた作品を発表する場を設けることは、活動を継続する上での糧となる。目標を持つことで充実した活動を行う動機付けとなるように、区民との協創を図りつつ、区民のニーズに合った発表の場を作っていく。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	足立区は活動の成果を発揮できる機会が十分にあると感じている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術活動の成果を発揮できる機会が十分にあると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	20.2%	39.2%			(70.0%)
目標値（R7）	70.0%	達成率	－	－	28.9%	56.0%			

指標名②	足立区の文化芸術事業を評価している区民の割合【再掲】								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区の文化芸術事業を評価できると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	25.8%	52.4%			(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	－	－	32.3%	65.5%			

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	2	1	0	2	0	0	5
%	40%	20%	0%	40%	0%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（20.2%→39.2%）は3計画アンケート未実施のため、R4年度は区政モニターアンケートを実施し、R3年度を上回った。

指標②は再掲（施策1-1）

【要因分析】

ア　区展・美遊展・文化祭などの共催事業については、R3年度の11イベントに比べて、R4年度は22イベント実施し、区民の文化活動の成果を発表できたことがアンケート結果につながったと分析する。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

ア　障がい者アート展は、参加や鑑賞する方から「現場に来場することが難しい」との声を踏まえ、R3年度から「デジタルアートミュージアム」を加えた。また、3年ぶりに本庁舎で作品展を開催した。

イ　子どもたちが伝統芸能などの技術をプロから教わり、その成果を発表する「大ひょうげん」では、405名の子どもたちが「こども歌舞伎」や「こども狂言」などを西新井文化ホールで披露した。また、併せて市川海老蔵氏を招いたイベント「ABSAI」を開催し、「歌舞伎メイク体験講座」などの体験型ワークショップも行った。

ウ　東京ヴェルディと連携したスポーツのイベント「足立区民観戦デー」では和太鼓演奏のセレモニーが行われ、サッカーに興味がある方々が文化芸術に触れる機会が創出された。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

ア　区展・美遊展・文化祭などのイベントを通じて、区民の自発的な文化事業の創出につなげ、広報や後援などの支援も実施していく。

イ　「大ひょうげん」では、対面やオンライン等、様々な手段を模索しながら事業を実施する。

【中長期の取り組み】

ア　活動の場や発表の場の創出方法を様々に検討し、より多くの区民に文化芸術の魅力や楽しさを「深める」機会を提供していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

「区民の活動が土、日、祝日に集中することなどの改善について、区民のニーズに応えられる施設利用の仕組みに期待する」との助言について、現在の利用実績の分析と民間施設の利用提案を発信していく。また、えんチャレ事業の会場利用は天空劇場だけでなく、生涯学習センターや各地域学習センターの利用へ誘導した。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	3

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　「活動の成果を発揮できる機会が十分にあると感じている区民の割合」はR3年度に対し19ポイント増加したものの4割に達していない。コロナ禍で「発表会が中止になった」「作品を作れなかった」「練習ができなかった」など様々な要因もあるが、目標達成に向けて努力が必要である。

イ　「大ひょうげん」は、子どもたちがプロの技に触れ、表現する喜びを体験し、芸術活動の楽しさと伝統芸能を学べる貴重な事業であり、多くの子どもたちが参加したことは評価できる。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　区展・美遊展・文化祭など区民が発表する機会はR3年度から11イベント増の22イベントとなり回復を見せている。今後とも区民の自発的な活動について、広報や後援などの支援によって発表の場を作ってほしい。

(3)　「評価の反映状況」への評価

ア　区の施設利用が土日祝日に集中することの改善について、えんチャレ事業など会場の分散化を図ったことは評価できる。また、民間施設の利用提案についても、区民にわかりやすく周知してもらいたい。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	―	―	―

5　推進委員会による助言（令和５年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への助言

(2)　「今後の方向性」への助言

重点項目外の施策であるため、令和5年度評価（令和4年度実施事業分）は対象外です。

(3)　「評価の反映状況」への助言

6　推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和●年●月記載）

文化芸術計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	３	足立区の文化資源を次世代に継承する
施策名	３－１	文化財・文化遺産を調査し、保存・活用する
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　地域文化課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

有形・無形を問わず、文化財・文化遺産を保護し、次の世代へ残していくための取り組みを行う。区に残る貴重な文化資源が消失してしまわぬように、区民や歴史研究者、郷土博物館協働グループなどの協力を得ながら、調査・収集・保存に努める。また、区内外を問わず人々の関心を引くPR方法を取り入れながら、積極的に活用していく。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	足立区の文化財や伝統芸能に触れたことのある区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 足立区内や住む地域の伝統芸能や文化財などを鑑賞したことがある区民の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	40.8%	実績値	40.8%	－	37.7%	44.5%			(70.0%)
目標値（R7）	70.0%	達成率	－	－	53.9%	63.6%			

指標名②	足立区の文化財・文化遺産・伝統文化を誇りに思う区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 足立区の文化財・文化遺産・伝統文化を誇りに思う区民の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	31.6%	55.6%			(50.0%)
目標値（R7）	50.0%	達成率	－	－	63.2%	111.2%			

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	4	0	1	0	0	0	5
%	80%	0%	20%	0%	0%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（37.7%→44.5%）、指標②実績値（31.6%→55.6%）は3計画アンケート未実施のため、R4年度は区政モニターアンケートを実施し、それぞれR3年度を上回った。なお、指標②はR7年度の目標値（50.0%）も上回った。

【要因分析】

ア　郷土博物館では、文化遺産調査の成果を紹介するため、区制90周年を記念した特別展「琳派の花園　あだち」に加えて、協働グループ展「あだちの拓本」「足立の学童疎開」を実施し、延べ11,293人の来場者があり、成果につながったと分析する。

イ　区のホームページでは、まるで実際に博物館へ訪れたかのように、画面上で博物館内を行き来して展示を観覧できる「電子展覧会」を実施した。年間の閲覧数は7,739回であり、博物館へ来ることが難しい方や気軽に見学をしたい方へ、区の貴重な美術資料を観る機会を提供した。

ウ　このような取り組みを通じて、過去の足立区の高い文化水準や足立区の美術品の高い文化的な価値が伝わり区民の誇りへとつながったと考える。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

ア　「琳派の花園　あだち」では、チラシや区のホームページ、SNSでの紹介に加え、広報では特集を組み「武蔵野美術大学の玉蟲教授と区長の対談」や、「文化遺産調査10年間のあゆみ」などで大々的に周知した。さらに、新聞・テレビ・ラジオ・雑誌に取り上げられ、足立区ゆかりの貴重な美術品の発見や保存を広く区内外へ伝えた。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

ア　郷土博物館はR5年1月からR7年3月まで改修に伴う休館をしており、館内の展示ができないため、電子展覧会を通年で実施し、これまでの文化遺産調査の成果を発信する。

イ　電子展覧会の好事例にならい、区の文化財を紹介する「文化財デジタルマップ」をR5年度に公表する。

ウ　区文化財の保存と利活用に関する行動計画を策定する。

【中長期の取り組み】

ア　文化遺産調査を継続し、保存・継承に努めるとともに、令和7年度の博物館リニューアル以降どのように足立区の魅力と文化を紹介していくか検討していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

「リアルとオンラインの融合による新たな可能性の追及を期待」「若い人達が、デジタルから実物に接することで、新たな文化等の創作に発展すること」との助言については、郷土博物館の音声ガイドや電子展覧会での伝統文化鑑賞の体験などにより、リアルとデジタルを活用した事業展開を行った。今後も、それらの成果を文化財や伝統文化に活かしていく。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	4

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)「現在の達成状況」への評価

ア　区の文化財等を誇りに思う区民の割合が5割を超えたことは評価できる。一方で、文化財等に触れたことのある割合は5割を下回っており、どのように行動に結びつけるかが課題である。

イ　区制90周年「琳派の花園　あだち」は、7,117人の来館者数があり評価できる。

ウ　郷土博物館の「電子展覧会」は、ホームページで展示の臨場感を味わえるものであり、来館できない方がバーチャル体験できたものと推察できる。時間や場所の制限がない電子展覧会の開催は評価できる。

(2)「今後の方向性」への評価

ア　「電子展覧会」に続き「文化財デジタルマップ」を公表することは、区民が手軽に地域の文化を知るきっかけとなり評価できる。

(3)「評価の反映状況」への評価

ア　郷土博物館の音声ガイドや「電子展覧会」など、リアルとデジタルを活用した事業展開は、多くの方へ文化財に触れる機会を提供できたため評価できる。それらの成果を活かした今後の事業展開に期待する。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	―	―	―

5　推進委員会による助言（令和５年８月記載）

(1)「現在の達成状況」への助言

ア　足立区の文化財・文化遺産・伝統文化を誇りに思う区民の割合が20%増加したのは評価できる。

イ　足立区独自の歴史・文化の調査とその成果の企画展が成功し、昨年度に較べて確実に入場者の数値が上がったことは評価できるが、目標値までの取り組みには、さらに創意工夫が必要である。

ウ　「電子展覧会」などの新しい試みは評価できる。サイトとしての閲覧回数には、PRやセミナーなどによる努力でまだ伸びしろがあるではないか。

(2)「今後の方向性」への助言

ア　「文化財デジタルマップ」や「区文化財の保存と利活用に関する行動計画策定」に期待したい。

イ　区由来の美術品が国際的な美術誌「国華」に掲載されたことは足立区民の誇りである。区独自の文化財への取り組みと展示、郷土博物館のリニューアルなどは、区内だけでなく区外への積極的なPRによって足立区民の誇りに繋がるのではないか。

ウ　「文化に触れる、鑑賞する」というのは一つの指標なので、その先に何を目指すか、区としての具体的な目標が必要である。

(3)「評価の反映状況」への助言

ア　リアルとデジタルを活用した事業展開が大きく進展していることを評価する。必要とする人に、常に新鮮な情報を提供できるように、進化するSNSプラットホームへの対応を期待したい。

6　推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和●年●月記載）

文化芸術計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	３	足立区の文化資源を次世代に継承する
施策名	３－２	次世代につなげる地域の伝統文化の継承・活性化を行う
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　地域文化課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

地域で受け継がれてきた伝統文化を知ることは、地域への愛着や誇りの醸成につながる。文化芸術団体の活動や地域のお祭り・お囃子など、足立区に根付いている魅力的な伝統文化の継承・活性化を支援していく。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	足立区の文化財や伝統芸能に触れたことのある区民の割合【再掲】（施策3-1）								
指標の定義	３計画アンケートによる調査を実施 足立区内や住む地域の伝統芸能や文化財などを鑑賞したことがある区民の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	40.8%	実績値	40.8%	－	37.7%	44.5%			(70.0%)
目標値（R7）	70.0%	達成率	－	－	53.9%	63.6%			

指標名②	足立区の文化財・文化遺産・伝統文化を誇りに思う区民の割合【再掲】（施策3-1）								
指標の定義	３計画アンケートによる調査を実施 足立区の文化財・文化遺産・伝統文化を誇りに思う区民の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	31.6%	55.6%			(50.0%)
目標値（R7）	50.0%	達成率	－	－	63.2%	111.2%			

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	0	1	0	0	0	1	2
%	0%	50%	0%	0%	0%	50%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（37.7%→44.5%）、指標②実績値（31.6%→55.6%）は3計画アンケート未実施のため、R4年度は区政モニターアンケートを実施し、それぞれR3年度を上回った。なお、指標②はR7年度の目標値（50.0%）も上回った。

【要因分析】

ア　伝統文化親子教室は区内14箇所で開催し、昨年度比27%増の201名の参加があり、区民が文化財や伝統芸能に触れる機会を創出したことも増加要因と考える。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

ア　2年ぶりに開催した「Japan Festa in ADACHI」では、歌舞伎や能などの伝統文化を体験する機会を創出し、延べ8,783人の参加があった。

イ　ギャラクシティドームシアターでは、俳優・浅野温子による足立区の伝統民話「猿仏塚」の読み語りなどを行い、子どもたちや区内外の方に足立区に伝わる魅力を発信した。

ウ　R3年度まで本施策に入っていた「藝大連携事業」は、区民へ身近で気軽に音楽へ触れる機会を創出するため、施策1-1「文化芸術の魅力や楽しさに「気づく」機会を創出する」へ移動した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

ア　地域の伝統文化や継承・活性化に向けて郷土芸能大会などを支援していく。

イ　文化庁事業「伝統文化親子教室」の申請サポートを引き続き行い、子どもたちの体験機会を確保することで、地域への愛着や誇りの醸成につなげる。

【中長期の取り組み】

ア　デジタルとリアル双方の利点を勘案し、有形・無形ともに伝統文化の継承・活性化に向けて事業を展開していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

「単に過去の文化財を保存するだけでなく、住民が主体的に関わる斬新な取り組みや『新たな郷土芸能の創作・育成』などの活動が期待される」に対する助言については、地域の伝統文化「じんがんなわ」を映像化し発信したように、今後についても、郷土芸能等のデジタル映像化により、正確な保存と技術の伝承を行い、後進育成につなげていく。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	4	4

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　「区の伝統文化等を誇りに思う区民の割合」は5割を超えているものの、「伝統芸能などを鑑賞したことがある割合」は約4割と低い。次世代の継承につなげるには「事業の見える化」の工夫が必要である。

イ　「Japan Festa in ADACHI」は、子どもたちが歌舞伎や能などの伝統文化を体験できる機会であり、次世代への継承につながると考えられ評価できる。

ウ　「東京藝大連携事業」は、多くの人に、文化芸術に触れる機会を創出する事業であるため、施策1-1へ移したことは妥当である。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　伝統芸能保存会等の活動支援を行うことは、地域のお囃子などの伝統文化を子どもたちが継承していくために大変重要であり引き続き実施されたい。

イ　区内14箇所で開催された「伝統文化親子教室」は日本舞踊などを子どもたちが身近に学べる機会であり評価できる。

(3)　「評価の反映状況」への評価

ア　地域の伝統行事や伝統芸能におけるデジタルの活用により、地域の伝統芸能を記録保存し、次世代への継承に有効と考える。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	―	―	―

5　推進委員会による助言（令和５年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への助言

(2)　「今後の方向性」への助言

重点項目外の施策であるため、令和5年度評価（令和4年度実施事業分）は対象外です。

(3)　「評価の反映状況」への助言

6　推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和●年●月記載）

文化芸術計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	４	文化芸術の輪を広げるプラットフォームを形成する
施策名	４－１	足立区の文化的な魅力を効果的に情報発信する
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　地域文化課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

文化芸術を身近に感じるためには、文化芸術に関する情報の充実も重要な要素となる。区民が必要な情報を得られるよう調査・検討を続けていくとともに、区内外の文化芸術に関連する情報の集約を図りながら、広報紙やＩＣＴの活用により人々の関心を引く効果的な情報発信を行う。

また、各学習センターにおいて、複合施設の特徴を活かし、3分野の情報を一体的に分かりやすく提供する。さらに、区内の文化施設やイベントを通して、文化芸術の楽しさをより広く知ってもらう普及活動を行う。

２　成果指標

※R7は目標値

指標名①	文化芸術に関する情報発信に満足している区民の割合								
指標の定義	施設利用者アンケート及びイベント参加者アンケートにより実施 「文化芸術に関する区の情報発信に満足しているか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：満足でない ～ ５：満足である）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	18.8%	28.6%			(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	－	－	23.5%	35.8%			

指標名②	足立区は文化芸術に親しめるまちと感じている区民の割合【再掲】（施策1-1）								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術に親しめるまちであると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	30.3%	－			(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	－	－	37.9%	－			

指標名③	情報の集約及び効果的情報発信								
指標の定義	ホームページに掲載したイベント数の年間アクセス数 「区ホームページ内の文化芸術に関連するイベントページが一年間で閲覧された数」								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	47,400回	41,583回	54,151回			(60,000回)
目標値（R7）	60,000回	達成率	－	79.0%	69.3%	90.3%			

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	5	0	0	0	0	0	5
%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（18.8%→28.6%）は3計画アンケート未実施のため、R4年度は区政モニターアンケートを実施し、R3年度を上回った。

指標②実績値　R4年度未実施。再掲（施策1-1）

指標③は、実施した事業がより成果として現れるよう、新たな指標を設定した。

【要因分析】

ア　指標①は、R3年度と比較し9.8ポイント増加したものの、情報発信に満足している割合は3割未満であり、人々の関心を引くことが出来なかった。

イ　R4年度に実施した文化芸術イベントについて、区ホームページの「おでかけ・イベント情報」へ掲載することで、日付や場所を選択して検索を可能とした。その結果、文化芸術に関するページの閲覧数は54,151回となった。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

ア　生涯学習センター及び地域学習センターからのお知らせや役立つ情報を掲載した「ミニコミ紙」を、コロナ禍の影響により町会自治会等に配布した。

イ　「ミニコミ紙」の発行に加え、SNSを活用して各センターの情報を発信し、フォロワー数である9,052名にタイムリーに講座情報等を発信した。また、「ミニコミ紙」等にQRコードを掲載するなど、アクセスしやすいように工夫をしている。

ウ　あだち広報において、「仲代達矢インタビュー」や「琳派の花園　あだち」記念対談の特集を組み、「動画deあだち」では「琳派の花園　あだち」を紹介した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

ア　学習センターの新規利用者層の獲得を図るため、講座情報等をミニコミ紙のほか、Twitter、Facebookに加え、LINEのプッシュ通知を活用し、効果的な情報発信を行っていく。

イ　ホームページや、SNS等の情報発信だけでなく、チラシ掲示やデジタルサイネージの活用などを通して、文化に興味がない方も情報に触れる機会が増えるような工夫を行っていく。

【中長期の取り組み】

ア　区政モニターアンケートによって、文化芸術の分野によって情報収集手段の方法が異なることが明らかとなったことから、広報・インターネット・SNSを分野に合わせ使い分けることで情報発信を行う。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

ア　「区の文化芸術推進計画をロゴ、キャラクター、スローガンなどで具体的に周知することが必要である」との助言については、他の周年事業のロゴ使用の状況も踏まえて検討する。

イ　「現在の「指標の定義」では実績値がカウントされないものもある」との助言については、この施策に紐づく事業の達成度が全てAにもかかわらず、成果指標ではその成果が確認できないため、効果的な情報発信かどうかを確認するべく、文化芸術イベントのホームページ閲覧数を新たな指標に設定した。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	4	4

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)「現在の達成状況」への評価

ア　あだち広報の特集記事や動画作成など、効果的な情報発信により、情報発信の満足度は9.8ポイントの増加、ホームページアクセス数も約1万3千回の増加と努力の結果は見受けられるが、区民全体の満足度は3割未満であり今度とも努力が必要である。

(2)「今後の方向性」への評価

ア　情報発信の方法について、文化芸術の各分野の対象者によって情報収集媒体が異なることを区政モニターアンケートで明らかとしたことは評価できる。今後、この結果を庁内で横展開することで効果的な情報発信につなげてほしい。

イ　今後も、LINEのプッシュ通知など様々な情報発信手段を活用することで、文化芸術への関心喚起につながるよう期待する。

(3)「評価の反映状況」への評価

ア　ホームページアクセス数は一定の成果と言えるので、新たに指標を設定したことは評価できる。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	―	―	―

5　推進委員会による助言（令和５年８月記載）

(1)「現在の達成状況」への助言

ア　ミニコミ紙のQRコード掲載やSNSの活用など、さまざま工夫による情報発信の成果は評価できるが、満足度が3割未満であることのギャップの分析が必要。

イ　現代の文化芸術は、生活の中にも大きく広がっている。文化芸術の領域について、区民との共有が必要ではないか。

(2)「今後の方向性」への助言

ア　情報の提供は、アナログとデジタルによるきめ細かいサービスによって対応がより複雑になっている。アンケートなどによる分析で、ある程度、整理する必要もあるのではないか。

(3)「評価の反映状況」への助言

ア　文化芸術イベントのHP閲覧数の新たな指標の設定は評価できる。

イ　区の文化芸術推進計画が、ロゴ＆キャラクター＆スローガンなどによって、より統一した表現で実現することを期待したい。

6　推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和●年●月記載）

文化芸術計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	４	文化芸術の輪を広げるプラットフォームを形成する
施策名	４－２	連携及び交流の機会を充実し、文化芸術の推進を図る
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　地域文化課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

国の文化芸術推進基本計画では、「文化芸術の推進のためには行政機関、文化芸術団体、文化施設、企業等の民間事業者等の関係者相互の連携及び協働が重要である」とされている。

足立区内においても、様々なジャンルのアーティストや伝統ある文化芸術団体、私設の文化施設など、文化芸術に関する専門的な知識や技術を持つ主体が活躍している。それらの主体がゆるやかにつながるプラットフォームを形成し、足立区の文化芸術の活性化を図る。

２　成果指標

※R7は目標値

指標名①	足立区の連携事業及び交流の機会が充実していると感じている区民の割合								
指標の定義	施設利用者アンケート及びイベント参加者アンケートにより実施 「足立区の連携事業及び交流の機会は充実していると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：充実していない ～ ５：充実している）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	15.2%	23.8%			(70.0%)
目標値（R7）	70.0%	達成率	－	－	21.7%	34.0%			

指標名②	足立区は文化芸術の推進に力を入れていると感じている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術の推進に力を入れていると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	21.2%	39.7%			(70.0%)
目標値（R7）	70.0%	達成率	－	－	30.3%	56.7%			

指標名③	足立区の文化芸術の推進施策を評価できると感じている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区の文化芸術の推進施策を評価できると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	19.1%	37.6%			(70.0%)
目標値（R7）	70.0%	達成率	－	－	27.3%	53.7%			

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	2	0	0	1	0	1	4
%	50%	0%	0%	25%	0%	25%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（15.2%→23.8%）、指標②実績値（21.2%→39.7%）、指標③実績値（19.1%→37.6%）の3つの指標については3計画アンケートが未実施のため、R4年度は区政モニターアンケートを実施した。それぞれR3年度を上回った。

【要因分析】

ア　コロナ禍の影響による制限が緩和され、R3年度と比較すると文化芸術交流の機会やイベントが実施できるようになり、区民の割合が向上したと考えられる。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

ア　音まち千住の縁「仲町の家」では、若手アーティストや学生により14プログラムが開催された。そのほか、「駅からハイキング」などの立ち寄りスポットとなり、来場者数は9,067名と過去最高を記録した。

イ　東京藝術大学と連携したコンサートでは郷土博物館・中央図書館へのアウトリーチを行い、それぞれ「音楽×文化財」「音楽×読書」の分野間連携が図られた。特に中央図書館では、会場の出入り口に藝大や音楽に関連する展示および臨時貸出カウンターを設置し、コンサート来場者が図書館利用へとつながった。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

ア　六町ミュージアム・フローラなどの区内5つの民間文化施設を紹介するパンフレットに「動画で見るコンサートinミュージアム」のQRコードを加えるなど、文化施設を支援することで文化芸術の輪を広げる。

【中長期の取り組み】

ア　文化団体連合会の文化祭や郷土芸能保存会の発表会などの活動の場を通して、引き続き活発な交流が行われるよう支援する。また、足立シティオーケストラ、足立吹奏楽団、足立区合唱団の3団体での意見交換会などを通じて交流を深め、文化芸術の活性化を図っていく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

「足立区独自の文化芸術の創出と継続のために、若手アーティストの北千住への集積や創業支援のような文化芸術の産業化発展に期待する」の助言については、提言の「産業化発展」には着手していないが、千住を中心に活動している「音まち千住の縁」や、えんチャレ登録団体を支援することで文化芸術の産業化のきっかけづくりにつなげていく。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	3

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)「現在の達成状況」への評価

ア　「連携事業及び交流会が充実していると感じている区民の割合」はR3年度に比べて8.6ポイント増加しているが、R7年度目標に比べて約3割程度であり、さらなる努力が必要である。

イ　音まち千住の縁「仲町の家」のような若手アーティストや学生との連携は、文化芸術へ触れる新たな機会を創り出し、文化芸術活動者の裾野の広がりにつながるため評価できる。

ウ　藝大連携コンサートのアウトリーチでの「音楽×文化財」「音楽×読書」の分野間連携は、音楽に興味がない方への音楽に触れる機会の創出であり評価できる。

(2)「今後の方向性」への評価

ア　施策目的の「文化芸術の推進を図る」を実現するためのプラットフォームの形成という手段が目的化しないように効果的な交流会の検討が必要である。

(3)「評価の反映状況」への評価

ア　文化芸術の産業化については、区として何ができるか、他自治体の事例調査や民間との連携事業などを研究し、課題を整理する必要がある。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	―	―	―

5　推進委員会による助言（令和５年８月記載）

(1)「現在の達成状況」への助言

ア　音まち千住の縁「仲町の家」は、街の文化施設としてすばらしい機能を果たしている。

イ　藝大連携アウトリーチによる「音楽×文化財」「音楽×読書」の分野間連携に今後も期待したい。

(2)「今後の方向性」への助言

ア　「コンサートinミュージアム」は、特徴ある施設を活用した5施設連携の企画で評価できるが、年間の催し物回数が少ない。ラ・フォル・ジュルネ※のような全施設同時開催（各施設でスタイルの異なる音楽プログラム、1施設で複数回のコンサート）のようなユニークな活動も可能ではないか。

イ　藝大以外の大学とのさまざまな連携企画の可能性にも期待したい。

ウ　動画サイトなどによる、活動成果の効率よい発信を期待したい。

※　フランスのクラシック音楽祭。複数の会場で多くの演奏者が連続してコンサートを行う。世界各国へ広がりを見せ、日本でも東京・金沢・鳥栖等で開催し成功を収めた。

(3)「評価の反映状況」への助言

ア　足立区には若手アーティストが定着して活動する土壌があるので、創業支援のような文化芸術の産業化発展や公共スペースでの発表などの助成が効果的と思われる。

6　推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和●年●月記載）

読書部会の助言総括

１　対象施策

施策 1-1 乳幼児が本に親しむ機会の充実　… 6 事業
施策 1-4 子どもや保護者に読書の楽しさや大切さを伝える啓発活動と情報発信　…12 事業
施策 3-2 読書活動推進のための多様な連携と協創の推進　… 3 事業

２　令和５年度読書部会からの助言総括

今年度の助言に向けて、本部会では「重点項目の推進のために何ができるか」をテーマとし、主に「子どもたちへの読書推進のためには保護者も含む大人の読書活動が大きな影響を与えること」「活発な活動を展開するためには多様な組織・機関・団体が連携した協働が重要であること」「デジタル環境が定着し生成ＡＩ等の新しい技術も出現している状況を効果的に利用すること、また逆にデジタル環境に過度に依存しすぎないこと」などを中心に検討してきた。

その中で挙がった論点を中心に助言をまとめる。

（１）子どもとその保護者が身近な場所で本に親しめる機会の提供

子どもたちの読書活動には、保護者を含めた子どもを取り巻く周囲の人々の読書活動が大きく影響しており、単に子どもたちだけではなく、大人に対しても働きかけることが重要であると考えられる。また、子どもたちの興味関心を喚起するためには、大人目線での活動だけではなく、子どもの視点に立った活動も求められる。

ア　乳幼児を対象とした絵本配付手法の再検討

読書への興味は、乳幼児の段階での環境が生涯にわたって大きな影響を与えるとされる。子どもに最初のきっかけを与える施策として、また保護者に対しても興味を喚起するという意味でも、「あだちはじめてえほん」は効果的であり、特に３・４か月検診時の配付が順調であることは高く評価できる。

ただし、１歳６か月児を対象とした活動での引換率が低いのは残念である。このような事業では多忙な保護者の負担をどのように軽減するかが重要であり、引換券を介して配付する現在の方式を再検討することも望まれる。

イ　学校図書館活動の充実と学校図書館・公共図書館の積極的な連携

学校での読書活動の中核を担うという観点から、また調べ学習など考える力を涵養するという点からも、学校図書館の活動は非常に重要であり、学校図書館司書教諭および学校図書館支援員も含めた積極的な活動が望まれる。

また、学校図書館の活性化には、資料や情報提供システムが充実した公共図書館との連携も必然であろう。

さらに、公共図書館を通じて各種外部機関まで広がる連携など、幅広い活動を行う環境づくりも求められる。資料の提供に際して、「あだち電子図書館」では児童書も数多く含まれており、これらを学校教育に効果的に取り込むなどの工夫も期待される。

ウ　読書に関する情報提供方法の多様化

読書活動においては、読書の楽しさ、読書の効果などをできるだけ多様な手段で子どもたちに伝えることが望まれる。さらに子どもたちだけにとどまらず、保護者にも積極的な情報提供を行うことが重要である。その意味で同世代の子どもたちからの推薦を掲載した広報誌や、読書の有効性を掲載したちらしの作成などの工夫は高く評価できる。

（２）多様な連携による読書活動の推進（図書館を利用しない人、読書に関心がない人にも届く効果的なアプローチ）

読書活動の推進をはかるには、図書館を利用しない人や読書に関心がない人に対していかに効果的なアプローチをとることができるかが重要である。そのためには図書(電子図書も含む)などを単に陳列するだけではなく、人々の興味を刺激するきっかけとなる活動を展開し、読書の面白さや有効性を積極的に周知・広報していくことが求められる。

ア　イベントなどの読書推進活動における多様なテーマ展開

人々に興味を持ってもらう行動としては、選書の充実や展示のような図書館が従来から行ってきた活動も重要であるが、イベントの開催などの積極的な活動も期待される。人々の興味が多様であることを考えれば、多様なテーマ展開がなされることが望ましい。また、長期間にわたって継続的な活動を持続することも重要である。

イ　多様な外部機関との積極的な連携

継続的に多様なテーマのイベントなどを開催することは図書館単独で行うことは不可能である。民間施設や出版社、書店など外部の機関と連携した活動が企画できるかが重要であろう。最近の図書館活動において外部機関との連携した活動が積極的に行われていることは高く評価できる。今後とも積極的な活動展開を期待する。

ウ　継続的な実施が可能な連携計画の工夫

限られた予算や人員の中で効果的な事業を行うためには、各種省力化の工夫も重要である。デジタル化をはじめとした新しい技術の利用も積極的に進めることも望ましい。図書館内などでの検討だけではなく、アイディアソン・ハッ

カソンなども活用して外部のアイディアも取り込むことなども考えられよう。

エ　図書に興味を持つ人々に対する多様なイベント展開

読書に興味がない人々に対してだけではなく、図書に興味を持った人に継続してもらうための活動も検討することが望ましい。場合によっては同様のテーマで内容を変えるなども考えられよう。

（３）アフターコロナやデジタル化の進展などの変化に対応した読書支援活動

近年のデジタル化の進展は、コロナ禍ともあいまって人々の行動様式・生活様式を大きく変えてきた。学校教育にタブレット端末を用いた学びが導入されてきており、読書活動についても電子書籍を利用する人が若年層を中心に少しずつ増加してきた。これにより読書環境・読書を行う場所の多様化や読み方の変化など広い範囲の影響が想定される。また、情報源としての図書の役割もウェブ環境、検索エンジン、動画配信サイトなども含めて使い分けが必要な時代となっている。さらに生成系ＡＩの出現などもあり、読書支援に関してもより多様な変化を見据えた幅広い活動が重要となっている。

既に今までの活動の中で、電子書籍の導入などデジタル化に対する対応が進められてきていることは評価できるが、今後、より速度をあげる形で対応が望まれる。

ア　デジタル資料提供のさらなる充実

紙資料だけにとどまらないデジタル資料の導入を進めてほしい。「あだち電子図書館」の充実は急務である。ただし、紙資料の重要性にも留意し、紙資料とデジタル資料のバランスに配慮することも求められる。

イ　利用統計に基づく紙資料・デジタル資料の選定

限られた予算の中で紙資料とデジタル資料の両方を充実させることを考えれば、館内閲覧と館外貸出の状況を詳細に分析して両者の利用予測を行うことが望まれる。ただし、全ての人に多様な情報を提供する公共図書館の役割を考え、単に利用の多寡だけを指標としないことに留意する必要がある。

ウ　「あだち電子図書館」への簡便な登録の仕組みづくり

「あだち電子図書館」のような新しい仕組みについては、実際の利用回数を増やす工夫も必要であるが、それ以前に登録者を増やすための仕組みづくりが重要である。工夫をこらした広報や、簡便に利用登録ができる手段など多様な方策の検討が望まれる。

エ　障がい者に対する高度なサービス展開や生成系ＡＩなどの新技術への対応

デジタル資料を中心とした電子図書館の特性を生かした新たな活動の展開を期待する。障がい者に対する高度なサービス展開や生成系ＡＩをはじめとした新技術に足立区内の子どもたちが乗り遅れない情報提供体制の構築も急務であろう。

（４）読書支援活動の指標

読書支援の中心となる図書館に関わる指標としては、図書館の来館者と貸出冊数だけに注目されるのが現状である。しかし、図書館を実際に利用する人が必ずしも区民の多くを占めるわけではないという現状を考えた場合、図書館に来館した人を中心とした指標だけではなく、図書館を利用しない人に対する働きかけも重要な意味を持つと考えられる。また、図書館の役割は単に所蔵する図書を貸し出すというだけではなく、情報提供や場の提供など多様である。

したがって、図書館を評価する際には貸出冊数の多寡ではなく、来館者にどのような多様なサービスが提供されているのか、また非来館者に対してどのような活動ができているのかも評価する指標を検討する必要があろう。さらに、ある程度読書支援活動が進んできた段階では、読書をしたかどうかという量的な側面だけではなく、読書によって人々にどのような影響がもたらされたのかというインパクトやアウトカムを把握することも必要となろう。

読書部会長
原田　隆史（同志社大学大学院教授）

読書活動推進計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	１	子どもの読書習慣につながる機会の充実
施策名	１－１	乳幼児が本に親しむ機会の充実
担当部・課		地域のちから推進部 中央図書館
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

乳幼児期に本に親しむことは言葉を覚えるだけでなく、将来の読書習慣の基礎となる。加えて、本を通じて親子がふれあうことで、子どもの愛着形成等にもつながる。

区立図書館や保育園等で、乳幼児が本に親しむ取り組みを行うとともに、子育て支援事業や乳幼児健診の機会を捉え、乳幼児が本に触れる機会を作っていく。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	親子での読み語りの割合								
指標の定義	３歳児健診時に実施するあだちはじめてえほんアンケートで、「親子で一緒に本を読んでいる」と回答した方の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	86.9%	実績値	86.9%	91.1%	91.5%	89.7%			(97.0%)
目標値（R7）	97.0%	達成率	89.6%	93.9%	94.3%	92.5%			

指標名②	１か月間に本を読んだ就学前児童の割合								
指標の定義	４～５歳児を対象とした、生活・ベジタベアンケートで、「本を一人で見たり読んだりする」と回答した方の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	83.9%	実績値	83.9%	77.1%	77.2%	77.6%			(88.0%)
目標値（R7）	88.0%	達成率	95.3%	87.6%	87.7%	88.2%			

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	3	2	1	1	0	0	7
%	43%	29%	14%	14%	0%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（91.5%→89.7%）は減少し、R7年度の目標値（97.0%）を下回った。

指標②実績値（77.2%→77.6%）はR3年度とほぼ横ばいで、R7年度の目標値（88.0%）を下回った。

【要因分析】

(1) 指標①については、子どもの読書と保護者の読書の関連を知っている保護者の割合（施策1-4・指標①）が5割前後に留まっていることからも、読書に対する保護者の理解が進まず、実績値が減少したと考えられる。

(2) 指標②については、各保育・教育施設での読み語りや、年齢に合った本の紹介、園での本の貸出の再開などが、子どもが自ら本を手に取ることにつながっていると考えられる。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

(1) **「あだち電子図書館」**によって、図書館に来館しなくても絵本に親しむことができるサービスを提供した**（R5年3月31日現在、利用登録5,455人、うちR4年度新規1,249人、R4年度貸出17,845回）。**

(2) 「あだちはじめてえほん」事業（3～4か月児）において、健診対象者約4,000人に絵本の配付とあわせて仮登録した**貸出カードを配付し、図書館への来館につなげた（240人が図書館で本登録）**。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

(1) 引き続き図書館や保育園、子育てサロン等でおはなし会を実施し、親子で本に親しめる環境を提供する。

(2) 「あだちはじめてえほん」事業において、1歳6か月児の絵本引換率の向上を図るため、引換率の低い健診会場で出張配付を行うなどの改善策を令和5年度中に試行する。その実績を分析のうえ、令和6年度以降に再度見直しを検討していく。

【中長期の取り組み】

(1) 大人の読書への関心が子どもの読書習慣に影響を与えることから、 読み語りの大切さや読書の意義、効果などを伝えるだけでなく、大人も本を楽しめる事業を展開するなど、アプローチを工夫することで子どもの読書習慣形成につなげていく。

＜評価の反映状況＞評価の反映有無、その理由

(1) 「電子図書館のターゲットを設定したサービス展開が求められる」との評価を踏まえて、「あだち電子図書館」では引き続き「子ども」「子育て世代」と中心とした資料収集に努めた。令和5年度もこの方針を継続し、子どもとその周囲の大人が楽しめるよう、電子書籍の充実を図っていく。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	4	4

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)「現在の達成状況」への評価

ア　微増傾向にあった指標①の実績値が減に転じたことは残念である。3歳児とその保護者への働きかけについて、乳幼児が多く利用する地域開放型図書室「わくわく　にこにこ　図書の森」の利用状況やアンケート結果を参考にするなどして、指標の改善に向けた取り組みを進めてほしい。

イ　子育てサロンで大型絵本の読み語りの回数を増やすなど、各施設が工夫し、子どもに本に触れる楽しさを伝える機会を作ることができたことは評価できる。

(2)「今後の方向性」への評価

ア　「あだちはじめてえほん事業」の1歳6か月の引換率が伸びないことは数年来の課題であり、改善の取り組みによって引換率が向上することを期待する。

ウ　図書館だけではなく、身近な場所で本に親しむことができることは、子どもが本を楽しむきっかけづくりにつながる。関係機関とさらに連携していくことを期待する。

(3)「評価の反映状況」への評価

ア　「あだち電子図書館」で引き続き子ども向けの電子書籍の貸出が伸びていることは、ターゲットを絞った蔵書計画が一定の成果を得ていることの現れであり、評価できる。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	－	－	－

5　推進委員会による評価（令和５年８月記載）

(1)「現在の達成状況」への評価

ア　実績値だけを見ると目標を下回ったということにはなるが比較的高い水準で推移している。また、読書に対する保護者の理解が進んでいないことが要因となっていることが明確となったことは重要な知見で今後の施策に生かしていくことが望まれる。

イ　「あだちはじめてえほん」事業について、3・4か月児健診での配付は順調で効果もあげている。一方、1歳6か月児対象の施策についてはさらなる工夫も必要。

ウ　貸出カードの仮登録自体は評価できるが、これを起点として本登録した方の割合が6%という実績は低調。より多くの区民が登録してもらえる仕掛けなど発展させる工夫が望まれる。

エ　各保育・教育施設における施策が一定の効果があったことは評価したい。

(2)「今後の方向性」への評価

ア　1歳6か月児健診での絵本の引換方法はアレンジが必要。特に、その場で本を受け取れるようにするなど利便性の向上は必須ではないか。また、大人が本に親しめる機会を作るために、はじめてえほんの配付時に、大人用の本の貸し出しや、電子図書館へつなぐ支援の強化等も検討してほしい。

イ　中長期の取り組みのテーマは評価したい。オンライン上で保護者に対して読書に関する付加価値、メリットを啓発することができれば、子育て等で忙しい人も空き時間に知識を深めることができるのではないか。

ウ　「与える」読書から「自発的な」読書への転換時期に対する積極的な取り組みを期待したい。自ら読む本を選び、次の一冊につなげるには、直接子どもたちに読書の意義や効果を考える時間を提供することがもっとも大切と考える。

(3)「助言の反映状況」への評価

ア　電子図書館により利用者の幅が広がることを期待したい。並行して、電子書籍とＳＮＳやインターネット上の文字情報の違いをしっかりと伝える必要があり、それに対する施策も検討してほしい。

イ　3歳児は保育園や幼稚園に通う子も多く、親子だけでなく、保育園での読書活動や読み聞かせの状況も反映してほしい。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

読書活動推進計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	１	子どもの読書習慣につながる機会の充実
施策名	１－２	子どもの読書習慣が身に付く活動の推進
担当部・課		地域のちから推進部 中央図書館
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

子どもの頃からの読書経験は習慣として将来に引き継がれる。幼児期から言葉の発達や関心の広がりに応じて読書を楽しむことで、読書習慣を身につける機会を作っていく。

そのために区立図書館や幼稚園、保育園、こども園、小中学校、児童館などの子育て施設で、おはなし会や朝読などの読書活動を推進する。また、図書館の利用を通じて将来にわたる読書機会の提供に努める。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	１か月間に本を読まなかった児童の割合【逓減目標】								
指標の定義	１か月間に本を読まなかった小学校５年生の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	23.7%	実績値	23.7%	未実施	24.2%	未実施			(23.0%)
目標値（R7）	23.0%	達成率	97.0%	－	95.0%	－			

指標名②	１か月間に本を読まなかった生徒の割合								
指標の定義	１か月間に本を読まなかった中学校２年生の割合【逓減目標】								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	39.5%	実績値	39.5%	未実施	38.7%	未実施			(39.0%)
目標値（R7）	39.0%	達成率	98.7%	－	100.8%	－			

指標名③	児童書の貸出冊数								
指標の定義	区立図書館における、児童書の貸出冊数								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	1,187,936冊	実績値	1,187,936冊	873,624冊	1,227,774冊	1,103,971冊			(1,280,000冊)
目標値（R7）	1,280,000冊	達成率	92.8%	68.3%	95.9%	86.2%			

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	2	1	3	1	0	0	7
%	29%	14%	43%	14%	0%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①、指標②は未実施。

指標③実績値（1,227,774冊→1,103,971冊）はR3年度を下回り、R7年度の目標値（1,280,000冊）も下回った。

※　指標①、②は逓減目標。

【要因分析】

（1）指標③については、子ども・子育て世代（0歳から15歳、30代から40代）の貸出冊数が約10.7%減少したことが減につながったと考えられる。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

（1）**出張おはなし会（275回・4,992人→537回・13,076人）や読み語り講座（5回・96人→6回･99人参加）**などは、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら開催し、R3年度の実績を上回った。

（2）**「あだち電子図書館」**では、ターゲットを「子ども」「子育て世代」に絞り、絵本や図鑑などを中心に所蔵し、いつでも、どこでも本に親しめる環境を整備した**（令和5年3月31日現在、累計5,455人登録、新規1,249人登録、累計17,845回貸出）**。

（3）**区立中学校全生徒（13,748人）に対し、「あだち電子図書館」の利用に必要なＩＤとパスワードを配付**することで、子どもが電子書籍に触れる機会を提供した**（令和5年3月31日現在、1,387回貸出）**。

（4）校長会にて**小学生用の「あだち読書通帳」のＰＲを行い、32校・12,746冊の配布につながった**。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

（1）子どもの読書習慣の定着を図るため、おはなし会や出張おはなし会等のイベントについて、縮小していた定員をコロナ禍以前の人数に戻しながら実施していく。

（2）「あだち電子図書館」について、令和5年度も引き続き「子ども（乳幼児から中学生）」「子育て世代」向けの電子書籍を中心に蔵書を拡大していく。特に小・中学生向けの電子書籍については、教育委員会の意見も参考にして選定を行っていく。

【中長期の取り組み】

（1）図書館だけでなく保育園や児童館などの子育て施設や学校と連携し、年齢に応じた本の紹介やおはなし会を行い、読書習慣の定着へとつなげていく。

＜評価の反映状況＞評価の反映有無、その理由

（1）「電子図書館の特性を生かした新たな活動の展開を期待する」との評価を受け、区立中学校全生徒を対象「電子図書館体験キャンペーン」を実施した。なお、令和5年4月から、小学校5・6年生に対象を拡大して実している。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	4	―

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　児童書の貸出冊数が減少したことは、子どもの読書活動を最も重視する区にとって残念な結果である。減となった背景について分析を行い、改善を図ってほしい。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　図書館だけでなく、子育て施設や学校と連携し、子どもへ働きかけを行っていくことは、子どもにとって本が身近なものとなるきっかけとなり、評価できる。

イ　新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、おはなし会や映画会などをコロナ禍以前の活動に戻していくことで、子どもたちが本に触れる機会が増え、指標の改善につながることを期待する。

ウ　子育て世代向けの電子書籍については、子育てや料理などの本以外に、子育て中のストレス解消や意欲向上につながるような書籍の導入も検討するなど、新たな利用者を取り込む工夫をしてほしい。

(3)　「評価の反映状況」への評価

ア　中学生向けの電子図書館体験キャンペーンは、中学生の登録者数が伸びていないこと、アンケート結果から生徒の間に電子書籍が一定程度浸透してきていることなどの実態を踏まえた取り組みであり、評価できる。利用が継続するよう、ＰＲに期待する。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	―	―	―

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価

(2)　「今後の方向性」への評価

重点項目外の施策であるため、令和5年度評価（令和4年度実施事業分）は対象外です。

(3)　「助言の反映状況」への評価

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

読書活動推進計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	１	子どもの読書習慣につながる機会の充実
施策名	１－３	本に親しみ、学ぶための学校図書館の充実と活用
担当部・課		地域のちから推進部 中央図書館
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

学校図書館は、読書活動や読書指導の場である「読書センター」としての機能、学習活動の支援や、授業の内容を豊かにしてその理解を深める「学習センター」としての機能、情報の収集・選択・活用能力を育成する「情報センター」としての機能を有する。

また、今後の学校図書館には、様々な場面での利活用を通じて、「主体的・対話的で、深い学びの実現」や「言語能力や情報活用能力、問題解決能力等の育成」を支える役割が期待される。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	小学生一人当たりの本の年間貸出数								
指標の定義	学校図書館での小学生一人当たりの本の年間貸出数								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	30冊	実績値	30冊	40冊	41冊	45冊			(36冊)
目標値（R7）	36冊	達成率	83.3%	111.1%	112.8%	125.6%			

指標名②	中学生の学校図書館の利用割合								
指標の定義	1か月の間に学校図書館を利用している生徒の割合 （重複あり　延べ利用者数÷生徒数）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	141.0%	実績値	141.0%	106.1%	85.7%	112.2%			(170.0%)
目標値（R7）	170.0%	達成率	82.9%	62.4%	50.4%	66.00%			

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	5	0	0	0	0	0	5
%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（41冊→45冊）はR3年度を上回り、R7年度の目標値（36冊）も上回った。

指標②実績値（85.7%→112.2%）はR3年度を上回ったが、R7年度の目標値（170.0%）は下回った。

【要因分析】

(1) 指標①、指標②ともに、R4年度は新型コロナウイルス感染症対策による制限が緩和された学校が多く、R3年度比で増となったと推察される。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

(1) 引き続き、密の回避、動線の確保、パーテーションの設置等、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた学校図書館運営を行ったが、徐々に開館時間や貸出等の利用制限が緩和されたため、学校図書館を利用する機会がR3年度と比べて増加した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

(1) 新たに配置した学校図書館スーパーバイザーの巡回や研修会・地区別連絡会の実施により、学校司書へのサポートを充実させる。小学校は令和5年度から3年をかけて段階的に全校の図書館支援員の配置日数を週2日から週4日に拡充することで、学校図書館の環境整備につなげる。具体的には、①調べ学習等授業支援の機会増加による児童の学習活動の充実、②魅力ある図書資料の展示や掲示、③図書資料の整理に注力していく。

(2) 教員に対しても研修会の実施や好事例等の情報発信等により、学校図書館利活用促進に向けた支援を行う。

【中長期の取り組み】

(1) 読書が好きな子どもたちを増やしていくために、学校図書館のさらなる環境整備や蔵書の充実に向けた取組みを進めていく。

(2) 子どもたちが読書に親しみ学校図書館を利用する環境を醸成していきながら、授業での積極的な学校図書館活用を促し、探究的な学習を推進していく。

＜評価の反映状況＞評価の反映有無、その理由

(1) 「学校図書館司書教諭および学校図書館支援員も含めた積極的な活動が望まれる」との評価を踏まえ、学校図書館の利活用促進や学校間格差解消のため、令和5年度から学校図書館の活用方法や環境整備に関するアドバイス・提案を行うなどして学校へのサポートを行う「学校図書館スーパーバイザー」を教育委員会に1名配置した。また、図書担当教員向け研修で、司書教諭の役割や学校図書館の授業での具体的な活用方法について取り扱っていく。

(2) 「効果的な活動の事例を区内全域に広げる工夫が求められる」との評価を踏まえ、各校1名の配置である学校司書の横のつながりを強化し、好事例の共有などを図るため、情報共有ツールの導入に加え、令和5年度からは地区別連絡会を開催する。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	―

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　小学校については、貸出冊数を伸ばすことが出来ており、派遣事業の定着により支援員と教員が連携した学校図書館の活用が進んでいると評価できる。

イ　中学校については、R3年度に比べ利用が増えたもののコロナ禍以前の水準までは回復していないため、魅力ある学校図書館づくりに向け、教員や学校司書への支援・啓発を一層充実させていく必要がある。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　新たに配置した学校図書館スーパーバイザーや派遣回数を週4日に拡充した学校図書館支援員を有効に活用し、学校図書館の利活用を推進してほしい。

イ　多くの児童・生徒が本に親しみ、読書好きの子どもたちを増やしていくとともに、学校図書館を学習の中で有効に活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に繋げてほしい。

(3)　「評価の反映状況」への評価

ア　学校図書館スーパーバイザーの配置や教員・学校司書への研修の充実など、学校図書館活用に関する学校への支援体制の充実について評価できる。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	―	―	―

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価

(2)　「今後の方向性」への評価

重点項目外の施策であるため、令和5年度評価（令和4年度実施事業分）は対象外です。

(3)　「助言の反映状況」への評価

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

読書活動推進計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	１	子どもの読書習慣につながる機会の充実
施策名	１－４	子どもや保護者に読書の楽しさや大切さを伝える啓発活動と情報発信
担当部・課		地域のちから推進部 中央図書館
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

区立図書館や幼稚園等の施設で、子どもに読書の楽しさを伝えるとともに、保護者にも自らが本を楽しむことや読書に関心を持つことが子どもの読書習慣に影響することを伝えていく。また、親子で読書に親しめるよう、成長や発達段階に応じた本や子育て期に読める本の紹介を進めていく。さらには出産前の保護者への情報提供など、場や機会、インターネットの活用など多様なチャンネルを通じた取り組みを工夫し進めていく。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	子どもの読書と保護者の読書の関連を知っている保護者の割合								
指標の定義	1歳6か月児及び3歳児健診に実施する、あだちはじめてえほんアンケートで「子どもの読書冊数が、母親など身近な大人の読書冊数と関係があることを知っている」方の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	41.6%	実績値	41.6%	51.1%	51.7%	52.0%			(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	52.0%	63.9%	64.6%	65.0%			

指標名②	親子で絵本を読む割合								
指標の定義	４～５歳児を対象とした、生活・ベジタベアンケートで、「親子で絵本を読む」と回答した方の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	75.5%	実績値	75.5%	77.1%	79.6%	80.0%			(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	94.4%	96.4%	99.5%	100.0%			

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	7	0	0	3	1	2	13
%	54%	0%	0%	23%	8%	15%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（51.7%→52.0%）はR3年度を上回ったが、R7年度の目標値（80.0%）は下回った。

指標②実績値（79.6%→80.0%）はR3年度を上回り、R7年度の目標値（80.0%）を達成した。

【要因分析】

(1) 指標①については、「あだちはじめてえほん」事業でのＰＲや、学校だより等で読書の大切さを保護者に伝える取り組みを行っているものの、本に興味のない保護者へ向けたＰＲが十分に進んでいないことが要因と考えられる。

(2) 指標②については、各教育・保育施設で行っている絵本の貸出が親子で読む絵本を選んだり楽しんだりするきっかけになっていることによるものと考えられる。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

(1) 「あだちはじめてえほん」事業のアンケートで、**「ほとんど本を読まない」保護者の割合は、令和3年度から約13～16ポイント減少**した（3・4か月児：61.6%→46.7%、1歳6か月児：61.1%→44.5%、3歳児：66.2%→53.0%）。

(2) 小学生が使用しているタブレットに、小学生向けのブックリスト「あつまれおもしろい本」の掲載ページのショートカットを作成し、**アクセス数の大幅増につながった（1,285回→12,431回）**。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

(1) 乳幼児については、おはなし会の実施や親子で楽しめる本の紹介により、親子で読書に親しめる機会を増やしていく。

(2) 小・中学生については、普段読書をしない子どもでも読みやすい本を紹介し、読書へのきっかけづくりを行う。

【中長期の取り組み】

(1) 「身近な大人の読書冊数との関連性」を掲載したリーフレットを作成し、イベントで配付するなど、本に興味のない保護者にも幅広く周知していく。

(2) 子どもや保護者が本に関する情報を得やすいよう、図書館ホームページやＳＮＳによる情報発信に加え、小・中学生に配布されたタブレットなども活用して情報発信をしていく。

＜評価の反映状況＞評価の反映有無、その理由

(1) 「子どもとその保護者が身近な場所で本に親しめる機会の提供を」との評価を踏まえ、子育て世代を主な対象とした「ちょい読み」を継続して実施するほか、絵本の読み語りと大人に向けた絵本講座を実施する「あだち絵本シアター」などを通じて、読書のきっかけづくりを行った。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	4	4

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)「現在の達成状況」への評価
ア　「身近な大人の読書冊数との関連性」は子どもの読書習慣の定着につながっていくため、さらなる周知を図ってほしい。

(2)「今後の方向性」への評価
ア　「ほとんど本を読まない」保護者の割合が減る一方、指標①がほぼ横ばいに留まっていることは残念である。商業施設におけるイベントでリーフレットを配付するなど、本に触れる機会の少ない保護者にも届くようなアプローチ方法の工夫に期待する。
イ　子どもへの本の紹介にあたっては、引き続き年齢や発達段階に応じた本を紹介するとともに、令和5年度から新たに配置された学校図書館スーパーバイザーと連携し、取り組みの充実を図ってほしい。
(3)「評価の反映状況」への評価
ア　3分野連携事業や複合施設の活用による本の展示などの既存の連携だけではなく、区民の新たな関心を喚起する取り組みを引き続き実施してほしい。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	－	－	－

5　推進委員会による評価（令和５年８月記載）

(1)「現在の達成状況」への評価
ア　スマートフォンの普及によって、本を読むことより手軽な映像を見る親子が増えている。親も含めて、本の魅力や活用方法を伝えるうえでデジタルの力を大いに活用してほしい。
イ　「本に興味のない保護者へ向けたＰＲが十分に進んでいない」とあるが、この点はもっともハードルが高い課題であると思う。読書世論調査における不読者の高さ(51.5%)を少しでも減らす工夫が望まれる。
ウ　タブレットにブックリストへの導線を作成する工夫がアクセス数の増加に寄与したことは興味深く評価したい。細かな工夫の積み重ねの重要性を示してもおり、各種の工夫を今後とも期待したい。
エ　コロナ禍の影響で実施できなかった事業があったことも要因と考えられる。今後に注視したい。
(2)「今後の方向性」への評価
ア　オンラインやYouTubeでのおはなし会、啓発活動など、デジタルの活用をもっと進めてほしい。また、リーフレットは「きっかけ」として有効であるが、これを生かすためＱＲコードからその先の詳細情報へ誘う等、さらなる工夫が必要である。数多くのチャレンジを期待したい。
イ　子ども達は、その本を誰が薦めているかによって「この人が言っているなら読んでみよう」と興味を持つことも多い。教育的立場からの紹介のみならず、子供たちと同年代や共感を呼ぶ立場からの紹介も望まれる。指導的立場の人々からと仲間からの紹介という両輪が必要であろう。
ウ　普段読書をしない小・中学生への取り組みをさらに工夫する必要がある。就学前児童に対する施策とのバランスを考えると、不足している感が否めない。
エ　コロナ禍の収束により、大いに事業を推進していくことを期待する。

(3)「助言の反映状況」への評価
ア　「あだちはじめてえほん」事業の中でのＰＲなど、電子図書館へつながる仕組みは評価できる。
イ　子どもとその保護者が身近な場所で本に親しめる機会を創る取り組みがなされていることは評価でき、今後も継続してくことを期待したい。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

読書活動推進計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	２	区民の読書に対する関心を高め支える環境の充実
施策名	２－１	区立図書館資料の充実と活用
担当部・課		地域のちから推進部 中央図書館
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

区民の多様な関心に応え、幅広い知識や考え方等に触れられるよう、区立図書館の資料を充実させる。
子どもに向けては児童資料や調べ学習のための資料などの充実を図っていく。
時事に合わせたテーマや地域課題の特集などを積極的に行い、区民の関心を高める工夫を行う。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	区民一人当たりの図書資料貸出数								
指標の定義	（算出式）　Ａ÷Ｂ Ａ　図書資料貸出数　　Ｂ　足立区の総人口								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	4.8冊	実績値	4.8冊	3.5冊	4.5冊	4.2冊			(6.0冊)
目標値（R7）	6.0冊	達成率	80.0%	58.3%	75.0%	70.0%			

指標名②	展示コーナー（特集棚）の本の貸出率								
指標の定義	時事に合わせた課題や地域課題を特集した、展示コーナーの本の貸出率								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	123.8%	145.0%	125.5%			(85.0%)
目標値（R7）	85.0%	達成率	－	145.6%	170.6%	147.6%			

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	3	0	0	0	0	0	3
%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（4.5冊→4.2冊）はR3年度を下回り、R7年度の目標値（6.0冊）も下回った。
指標②実績値（145.0%→125.5%）はR3年度を下回ったが、R7年度の目標値（85.0%）は上回った。

【要因分析】

(1) 指標①については、全貸出冊数の約52%を占め、メインユーザーでもある子ども・子育て世代（0歳から15歳、30代から40代）の貸出冊数がR3年度比で約10.7%減少した（1,714,065冊→1,531,135冊）ことが、貸出冊数の減に繋がったと考えられる。
(2) 指標②については、R3年度よりも貸出率は低下しているものの、展示回数や展示冊数を増やしたところ、貸出冊数は増加した。また、庁内から特集展示のテーマを募集し、関連本の展示に加え、啓発物品やパネル展示などによりＰＲを強化したことが、関連本の貸出につながったと考えられる（展示回数1,705回、展示冊数60,869冊、貸出冊数80,580冊）。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

(1) あだち電子図書館について、**引き続き蔵書の拡大に努めた（3,022タイトル→5,431タイトル）**。また、**区立中学校全生徒（13,748人）に対し、あだち電子図書館の利用に必要なＩＤとパスワードを配付**することで、子どもが電子書籍に触れる機会を提供した。
(2) 10月に区制90周年記念事業として、郷土博物館が開催した企画展「琳派の花園あだち」と連携し、**区立図書館15館で琳派に関する本を展示**。また**琳派のデザインを掲載した特製しおりを区立図書館、区内の一部書店（17店舗）、郷土博物館等で合計30,000枚配付**し、区の郷土を知るきっかけにつなげた。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

(1) 令和5年10月から「あだち電子図書館」と図書館システムの連携を開始する。利用者の大幅増（令和5年5月末現在5,667人→約16万人）に向けて、令和5年度前半に集中して購入するとともに、1冊に対して複数人が同時に利用できる電子書籍（マルチライセンス）の収集を進め、蔵書の拡充を図っていく。
(2) 特集展示については、庁内所管との連携を強化し、あだち広報やホームページ、ＳＮＳの活用により積極的なＰＲを展開する。

【中長期の取り組み】

(1) 区民に読書や図書資料への関心を高めてもらうため、学識をはじめとする専門家などの第三者の意見を聴取する仕組みを令和5年度中に構築し、令和6年度以降に選書や展示方法などのあり方を検討していく。

＜評価の反映状況＞評価の反映有無、その理由

(1) 「読書や図書資料への関心を高めるための選書や展示方法の工夫が望まれる」との評価を踏まえ、時事テーマや各種特集展示などを展開した。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	―

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　コロナ禍の影響が弱まる中にあって、区民一人当たりの図書資料貸出数が減に転じたことは残念である。子ども・子育て世代の貸出が減となった背景について、分析を継続してほしい。

イ　各図書館で展示回数を増やして、区民が本を手に取りやすくする方向性は評価できる。今後の継続的な取り組みを期待する。

ウ　郷土博物館との連携は、民間の書店も巻き込んだ新たな連携として、評価できる。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　図書館以外の場所へのアウトリーチや行政サービス情報を切り口とした特集展示は、読書に関心がない人が本を手に取るきっかけとなることが期待でき、方向性は評価できる。いかに関心を引けるかがポイントとなるため、テーマ設定や展示の見せ方に工夫を図るとともに、評価や見直しを継続的に行ってほしい。

(3)　「評価の反映状況」への評価

ア　選書や展示方法の見直しに向けて、専門家の意見や先進事例等も参考の上、調査・分析を進めてほしい。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	―	―	―

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価

(2)　「今後の方向性」への評価

重点項目外の施策であるため、令和5年度評価（令和4年度実施事業分）は対象外です。

(3)　「助言の反映状況」への評価

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

読書活動推進計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	２	区民の読書に対する関心を高め支える環境の充実
施策名	２－２	障がいや言語などにかかわらず読書に親しめる図書資料などの整備
担当部・課		地域のちから推進部 中央図書館
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

障がいのある方や高齢の方などの読書に対するニーズに対応して、資料整備やサービスの充実を図る。
外国語の本や大活字本などの充実とともに、障がいや高齢などの理由で区立図書館に足を運べない方を対象に、図書資料の宅配サービスを拡充する。
さらに電子書籍の導入・活用も検討し、図書館にアクセスしにくい人々も本に親しめる環境を目指す。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	障がい者向け図書資料宅配サービスの冊数								
指標の定義	図書資料宅配サービスによる、貸出冊数								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	76冊	実績値	76冊	218冊	367冊	418冊			(160冊)
目標値（R7）	160冊	達成率	47.5%	136.3%	229.4%	261.3%			

指標名②	種類別(大活字本、外国語図書など)の貸出冊数								
指標の定義	大活字本、外国語図書などの貸出冊数								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	22,443冊	実績値	22,443冊	20,023冊	22,241冊	22,685冊			(29,000冊)
目標値（R7）	29,000冊	達成率	77.4%	69.0%	76.7%	78.2%			

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	8	1	0	0	0	1	10
%	80%	10%	0%	0%	0%	10%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】
指標①実績値（367冊→418冊）はR3年度を上回り、R7年度の目標値（160冊）も大きく上回った。
指標②実績値（22,241冊→22,685冊）はR3年度を上回ったが、R7年度の目標値（29,000冊）は下回った。

【要因分析】
(1) 指標①については、オンライン申請による利用登録の受付を開始したことにより利用登録者が増え、R3年度よりも利用回数・利用冊数が伸びた（17人・114回・367冊　→　25人・139回・418冊）。
(2) 指標②については、種類ごとに新たな資料を購入しているが、出版数が限られている資料もあり、大幅な貸出増にはつながっていない。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】
(1) 共生社会の理解促進の一環として、**職場体験に訪れた小学生に対して、音声読書器の操作の実演などを行った（3校・13人）**。
(2) 中央図書館において子どもを対象にした**図書館バックヤードツアーを開催し、障がい者サービスの紹介を行った（2回・12人）**。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】
(1) ＳＤＧｓや共生社会の実現に向けた取り組みとして、令和5年7月から中央図書館に「りんごの棚」を新たに設置し、読書に困難がある子どもでも読書を楽しめる環境を整える。
(2) 令和5年度中に関係団体や障がい者施設への聞き取り調査を実施し、使いやすい図書資料宅配サービスの改善を図る。

【中長期の取り組み】
(1) 読書バリアフリー法を踏まえ、ＩＣＴ活用による利用者のサービス向上を図るなど、障がい者サービスの充実を目指していく。

＜評価の反映状況＞評価の反映有無、その理由

(1) 「デジタル資料は障がい者に対する高度なサービス展開への応用ができる」との評価を踏まえて、「足立区地域自立支援協議会権利擁護部会」において、「あだち電子図書館」や図書館の障がい者サービスについてＰＲを行った。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	3	―

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　障がい等を理由に図書館への来館が困難な方に対して読書を楽しめる機会を提供することは、だれもが身近に読書に親しむための効果的な手段として評価できる。利用者の増に向けて、ＰＲの強化やや利用しやすい環境づくりに期待する。

イ　種類別（大活字本、外国語図書など）の貸出冊数が増加していることは、図書館の障がい者サービスが徐々に普及してきていることの現れとも言え、評価できる。引き続きＰＲを図ってほしい。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　「りんごの棚」の取り組みは、読書に特別のニーズがある子どもたちが本に触れるきっかけづくりとして期待できる。ＰＲを十分に進めるとともに、貸出冊数など利用実績の分析を行い、地域図書館への拡大について検討してほしい。

イ　ＩＣＴ化を進めて、利便性の向上を図ることは、新しい生活様式やデジタル化の進展といった社会情勢の変化に対応するために必須である。多くの方の読書活動を推進していくためにも、さらなる周知の強化を期待する。

(3)　「評価の反映状況」への評価

ア　障がい者への電子図書館の利用促進については、単にＰＲを行うだけに留まらず、団体への聞き取き取りなどを通じてよりよいサービスの検討を早急に進めてほしい。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	―	―	―

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価

(2)　「今後の方向性」への評価

重点項目外の施策であるため、令和5年度評価（令和4年度実施事業分）は対象外です。

(3)　「助言の反映状況」への評価

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

読書活動推進計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	２	区民の読書に対する関心を高め支える環境の充実
施策名	２－３	区立図書館などの空間、サービス、情報発信の充実
担当部・課		地域のちから推進部 中央図書館
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

乳幼児コーナー、閲覧スペース、書架等の空間上の工夫や、レファレンスをはじめとするサービス、Wi-Fiや利用者向け電源の設置など情報環境の充実を図る。また、ICタグを活用し、複合施設の機能を活かして、図書館機能の拡大を図り、誰もが利用しやすい環境づくりに取り組み、居場所としての図書館の役割を高めていく。

さらに、公共施設や区民・団体等との連携を図り、図書受渡窓口の整備など図書館外で区民が本を身近に手に取れる環境整備を目指すとともに、様々な媒体や関係する施設を活用し、本に関する情報発信を積極的に行う。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	人口に占める登録者割合								
指標の定義	（算出式）　Ａ÷Ｂ Ａ　区立図書館登録者数計Ｂ　足立区の総人口								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	26.1%	実績値	26.1%	24.5%	23.9%	23.3%			(35.0%)
目標値（R7）	35.0%	達成率	74.6%	70.0%	68.3%	66.5%			

指標名②	１か月に本を読んだ区民の割合								
指標の定義	３計画アンケートにて、本を読むと回答した方の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	54.3%	実績値	54.3%	未実施	52.9%	未実施			(60.0%)
目標値（R7）	60.0%	達成率	90.5%	—	88.2%	—			

指標名③	Webを活用した図書の予約貸出冊数								
指標の定義	パソコンやスマートフォン等インターネットを活用した、図書の予約貸出冊数								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	684,099冊	実績値	684,099冊	722,618冊	781,795冊	775,188冊			(888,000冊)
目標値（R7）	888,000冊	達成率	77.0%	81.4%	88.0%	87.3%			

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	10	2	0	0	0	0	12
%	83%	17%	0%	0%	0%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（23.9%→23.3%）はR3年度を下回り、R7年度の目標値（35.0%）も下回った。

指標②は未実施。

指標③実績値（781,795冊→775,188冊）はR3年度を下回り、R7年度の目標値（888,000冊）も下回った。

【要因分析】

（1）指標①については、来館者数はR3年度を上回りコロナ禍前の水準に戻りつつあるが、登録に繋げることができず、登録者の割合が伸びなかったと考えられる。

（2）指標③については、図書資料貸出数の減少（2,940,503冊→2,745,072冊）に伴い予約貸出冊数も減少したが、減少率（約0.9%）は図書資料全体の貸出冊数の減少率（約6.7%減）に比べて低く、引き続きインターネット予約の需要はあると考えられる。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

（1）綾瀬小学校に乳幼児、小学生とその保護者を対象とした地域開放型図書室**「わくわく　にこにこ　図書の森」を開設**し、絵本の貸出やおはなし会を実施することで、地域で子どもが本に出会う場所を創出した**（利用者数3,394人、貸出冊数4,101冊）**。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

（1）コロナ禍で自粛していた図書館でのイベント等を充実させ、図書館に足を運ぶきっかけを増やしていく。

（2）商業施設へのブックポストの設置や、図書貸出カードの電子化などの新たなサービスにより、利用者の利便性の向上を図る。

【中長期の取り組み】

（1）身近な場所で本に親しめるよう、図書館以外の場所での読書推進について、「読む団地」や大型商業施設などの民間施設との連携も含め、他自治体の事例も参考に検討していく。

＜評価の反映状況＞評価の反映有無、その理由

（1）「図書館と他の組織との連携の充実」との評価を踏まえて、地域開放型図書室「わくわく　にこにこ　図書の森」の開設をしたほか、シアター1010で「あだち絵本シアター」を開催するなど、図書館外で本に身近に触れる機会を提供した。

（2）「より速度をあげる形でデジタル化等への対応を進めてほしい」との評価を踏まえて、図書貸出カードの電子化と、「あだち電子図書館」と図書館システムの連携に向けた検討を開始した（令和5年度実現予定）。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	4	―

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　区立図書館の登録者割合は減少傾向が続いている。図書館の来館目的など利用者の実態を把握し、その分析を進めたうえで、出張登録など即効性のある対策を検討してほしい。

イ　担当部の分析にもあるように、インターネットを活用したサービスへの需要へ継続していると推察される。「あだち電子図書館」と図書館システムの連携など、引き続きデジタル化に関する取り組みも進めてほしい。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　ブックポストの設置場所の拡大は、利便性の向上に加えて、未返却資料の減少の効果も期待され、評価できる。設置時には商業施設と連携してＰＲを行うなど、情報発信を工夫してほしい。

イ　ＩＣタグの活用により、図書館内だけでなく図書資料が複合施設全体で活用が可能となった点は、読書に関心がない区民や図書館に来館しない区民への働きかけの一つとして評価できる。

(3)　「評価の反映状況」への評価

ア　地域で子どもが本に出会う場所として、地域開放型図書室「わくわく　にこにこ　図書の森」を開設したことは評価できる。開設2年目となる令和5年度は、利用者数や貸出冊数の目標値を定めるなどＰＤＣＡサイクルを意識するとともに、特に利用の少ない春休み・夏休みに映画会など新たなイベントを企画することで、利用の増を図ってほしい。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	－	－	－

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価

(2)　「今後の方向性」への評価

重点項目外の施策であるため、令和5年度評価（令和4年度実施事業分）は対象外です。

(3)　「助言の反映状況」への評価

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

読書活動推進計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	３	読書活動を通じた人と人とのつながりの形成
施策名	３－１	読書活動にかかわる人材の育成と団体の支援
担当部・課		地域のちから推進部 中央図書館
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

読書活動推進の事業・サービスにかかわるボランティアを育成するとともに、様々な活躍の場を設けることで、読書活動を地域全体で活性化していくことを目指す。
また、読書活動に取り組む団体等を積極的に支援する。
区立図書館の職員、保育園や幼稚園の職員、学校図書館の運営・活用に関わる教諭などを対象とした研修を行い、読書活動スキルの向上を図る。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	読み語り講座等の参加者のうち読書推進活動を参加希望する方の割合								
指標の定義	読み語り講座等の参加者のうち、アンケートで「読書推進活動に携わりたい」と回答した方の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	58.0%	71.0%	83.5%			(50.0%)
目標値（R7）	50.0%	達成率	―	116.0%	142.0%	167.00%			

指標名②	図書資料の団体貸出点数								
指標の定義	団体への図書資料貸出点数								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	120,840点	実績値	120,840点	163,517点	227,201点	241,275点			(143,000点)
目標値（R7）	143,000点	達成率	84.5%	114.3%	158.9%	168.7%			

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	4	1	1	0	0	1	7
%	57%	14%	14%	0%	0%	14%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】
指標①実績値（71.0%→83.5%）はR3年度を上回り、R7年度の目標値（50.0%）も大きく上回った。
指標②実績値（227,201点→241,275点）はR3年度を上回り、R7年度の目標値（143,000点）も大きく上回った。

【要因分析】
(1) 指標①については、講座実施後のアンケートからは「子どもの成長に合わせて本を選ぶ大切やを知ることができた」「紙芝居の奥深さを感じた」などの反応があり、講座の実施が受講生の読書推進活動へのモチベーション向上につながったと考えられる。
(2) 指標②については、区立小・中学校の「図書館を使った調べる学習コンクール」の応募数の増加（R3年度10,232作品→R4年度11,480作品）に合わせて図書配送サービスの利用も増加したと考えられる。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】
(1) 例年実施している乳幼児向け絵本の読み語り講座に加えて、**小学生向け絵本の読み語り講座を小学生が楽しめる工作の作り方指導と組み合わせて**実施した**（2回・41人参加）**。
(2) 夏休み期間中、区立図書館全館で小・中学生を対象に**「図書館を使った調べる学習コンクール」用図書の貸出を実施した（貸出冊数999冊）**。また、令和5年度の貸出セットの見直しに向けて教員向けアンケートを行い、教員と教員から見た児童・生徒のニーズの把握に努めた。
(3) **区内児童館への図書配送**について、未利用の児童館へのＰＲを行い、利用の増を図った**（利用施設15館・配送回数56回・貸出冊数2,238冊）**。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】
(1) ボランティアなど読み語りを行う人材のスキルアップとして、引き続き読み語り講座を実施していく。
(2) 視覚障がい者向けの対面朗読の再開に向けて、朗読ボランティアとの調整や障がい者団体へのＰＲを行う。
(3) 調べ学習用図書配送サービス等の利用促進に向けて校長会等でのＰＲを強化するとともに、教員アンケートの結果や学習指導要領に沿ったテーマを用意していく。

【中長期の取り組み】
(1) 読み語り講座の受講者に対して、読み語りボランティアグループにつなげるだけでなく、個人でも活動できる場を紹介するなどそれぞれのニーズに合った活動機会を提供し、活動の定着を図っていく。

＜評価の反映状況＞評価の反映有無、その理由

(1) 「図書館と他の組織との連携の充実を期待する」との評価を踏まえ、綾瀬小学校地域開放型図書室「わくわく　にこにこ　図書の森」にて地域のボランティア団体によるおはなし会を開始した。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	―

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　読書活動に関わる方を支援し、モチベーションの向上につなげることは、特に子どもに読書の楽しさや大切さを伝えていく中で重要なことであり、評価できる。

イ　区内小・中学校へのＰＲと児童館への図書配送を通し、本に親しみ、学ぶための団体貸出が増えていることは評価できる。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　読み語りボランティアや周りの大人が、読書の楽しさや大切さを伝えていけるように、読書活動に関わる人材の育成や活動の場を提供し、さらに読書活動が広がっていくことを期待する。活動ニーズの把握にあたっては、講座参加者へのアンケートが有効と思われるため、検討してほしい。

イ　図書貸出セットの見直しを図るため、教員へのアンケートを実施したことは評価できる。今後は、調査結果をしっかり分析し、児童・生徒の興味・関心を引くようなテーマ設定を期待したい。

(3)　「評価の反映状況」への評価

ア　地域のボランティア団体と連携しておはなし会を実施したことは、団体の活躍の場の創出にもつながっており、評価できる。活動の様子をＰＲするなど、モチベーションの向上を図る取り組みも検討してほしい。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	―	―	―

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価

(2)　「今後の方向性」への評価

重点項目外の施策であるため、令和5年度評価（令和4年度実施事業分）は対象外です。

(3)　「助言の反映状況」への評価

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

読書活動推進計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	３	読書活動を通じた人と人とのつながりの形成
施策名	３－２	読書活動推進のための多様な連携と協創の推進
担当部・課		地域のちから推進部 中央図書館
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

読書が個人の楽しみに終わることなく、各人の多様な関心と活動につながることを目指す。
そのため区立図書館においては、本や読書活動をきっかけに利用者同士がコミュニケーションを図れるような事業展開を進めるとともに、区立図書館、地域学習センター、生涯学習振興公社、民間事業者などが連携し、区民の交流を促し、多様な活動につながるような取り組みを行っていく。また、読書をきっかけとして、文化やスポーツをはじめとする異なる分野への活動にもつながるような機会提供にも取り組む。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	３分野連携事業への参加により、新たに読書を始めた区民の割合								
指標の定義	３分野連携事業の参加者アンケートにおいて、「定期的ではないが、読書をしている。」以上を選んだ区民の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	79.8%	75.7%	71.0%			(50.0%)
目標値（R7）	50.0%	達成率	－	159.6%	151.4%	142.00%			

指標名②	アウトリーチ事業の参加者数								
指標の定義	図書館の外で、読書活動推進事業に参加した方の人数								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	576人	620人	1645人			(1,800人)
目標値（R7）	1,800人	達成率	－	32.0%	34.4%	91.4%			

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	2	0	1	0	0	0	3
%	67%	0%	33%	0%	0%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】
指標①実績値（75.7%→71.0%）はR3年度を下回ったが、R7年度の目標値（50.0%）は上回った。
指標②実績値（620人→1,645人）はR3年度を上回ったが、R7年度の目標値（1,800人）は下回った。

【要因分析】
(1) 指標①については、文化芸術またはスポーツをきっかけに読書につなげる「ちょい読み」のプログラム数が少なく、読書をしていない区民への働きかけ十分でなかったことが、指標の減の要因と考えられる。
(2) 指標②については、各図書館の創意工夫による取り組みにより人数が増えたと考えられる。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】
(1) 中央図書館と地域調整課が連携して、**外国にルーツを持つ児童・生徒を対象におはなし会と季節に合わせた工作会**を実施し、本の楽しさ伝えた**（4回・60人参加）**。
(2) 出版社と連携し、ジェイヴェルデ大谷田において、**イラストレーターによる昆虫のスケッチ教室と昆虫に関する絵本の読み語り**を実施した**（19人参加／定員20人）**。
(3) シアター1010で開催された、**文化のちから体験事業（絵本音楽会）と連携し、絵本の読み聞かせと出張図書館を同日に開催**し、絵本に身近に触れる機会を提供した**（延べ247人参加、91冊貸出）**。
(4) **中央図書館と東京芸術大学が連携したコンサートを初めて開催**し、演奏に加えて、会場で**音楽に関する本の閲覧・貸出**を行った**（100人参加／定員100人、20冊貸出）**。
(5) 10月に区制90周年記念事業として、郷土博物館が開催した企画展「琳派の花園あだち」と連携し、区立図書館15館で琳派に関する本を展示。また、琳派のデザインを掲載した特製しおりを区立図書館、区内の一部書店、郷土博物館等で合計30,000枚配付し、区の郷土を知るきっかけにつなげた【施策2-1再掲】。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】
(1) 普段本を読まない人でも気軽に楽しめるよう、読み語りイベントを多くの人が集まる商業施設などで開催していく。
(2) 対面でのイベントに加え、オンラインの活用も図りながら、気軽に本に親しめる事業を検討していく。

【中長期の取り組み】
(1) 民間施設や出版社、書店などと連携した活動を実施し、読書に興味がない人や図書館に来ない人が本にふれ、読書の楽しさを知ることができる機会を提供していく。

＜評価の反映状況＞評価の反映有無、その理由

(1) 「図書館や図書館サービス、図書資料自体を切り口としないアプローチを期待する」との評価を踏まえ、東京藝術大学や郷土博物館など今まで連携していなかった組織と連携したイベントや展示を実施した。令和5年度も意外性やインパクトを意識した企画を検討していく。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	4

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　指標①については、年々数値が下がっているので、新たな場所や切り口を検討するなど、工夫を図ってほしい。

イ　本に親しむきっかけとして、新たな組織と連携を試みたことは評価できる。

ウ　アウトリーチ事業として、各館の様々な取り組みは、普段読書をしない人にもアプローチできるものであり、今後も継続して実施してほしい。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　アウトリーチ事業については、図書館以外の場所への事業実施の働きかけを積極的に行うことで、読書に親しむポイントを数多く提供できるよう努めてほしい。

イ　イベントについては、新たに大人向けの読み語りイベントを企画するなど、読書の裾野を広げる取り組みにチャレンジしてほしい。

ウ　民間書店の展示方法やポップの使い方などの事例も参考にするなど、幅広く情報収集してほしい。

(3)　「評価の反映状況」への評価

ア　引き続き、新たなアイデアや連携により分野を越えた事業を工夫して行い、区民が本に親しむためのきっかけづくりを充実させてほしい。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	－	－	－

5　推進委員会による評価（令和５年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　様々な事業を実施していることは評価できる。さまざまな観点からの積極的な取り組みから成果が生み出されることが期待される。

イ　ただし、事業の多くは69万人の区民に行き届くところまでは達していない。多くの方が参加できるように、駅近や大型スーパーで実施するといった定員や場所、開催日時の工夫や、オンライン開催を併用するなど、よりきめ細かな計画策定を行うことが望まれる。

ウ　様々な施策により、図書館以外の場所での読書活動推進事業（アウトリーチ事業）への参加人数が伸びたことも評価したい。これらは広義での読書体験につながる可能性があり、今後も期待する。

エ　広報誌やホームページで図書館の事業を目にする機会が多くあり、取り組みが広く知られてきていると感じる。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　大型施設などの民間施設や出版社、書店との連携など、外部の組織と協同した施策を今後とも大いに期待する。

イ　紙の本を読むことだけが読書ではない。広義での読書体験の機会を創出してほしい。

ウ　コロナ禍の影響下で取り組んできたホームページやＳＮＳなどは、今後も有効な手段になると思われる。生成AIなど新しい技術も出現してきており、デジタルツールを効果的に利用した活動展開の一層の活性化に期待する。

エ　リアルな広報活動に加えて、デジタル空間で行われるイベントも中長期的に検討が必要である。

(3)　「助言の反映状況」への評価

ア　3分野連携の取り組みが進んでいることは評価できる。

イ　連携の際は、図書館主催だけではなく、様々なイベントに図書館や読書の要素をプラスしていくことも計画し、限られた資源を効果的に利用する省力化にも注意を図ってほしい。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

運動・スポーツ部会の助言総括

１　対象施策

施策 1-1 子ども・成人・高齢者・障がい者が運動・スポーツを楽しむきっかけづくり …29 事業
施策 1-2 だれもが運動・スポーツを「する」「みる」機会の充実 …10 事業
施策 2-1 身近な場所における運動・スポーツの推進 … 6 事業
施策 2-2 協働・協創による他分野との連携の仕組みづくり … 3 事業
施策 3-2 運動・スポーツをささえる人材の育成とマッチング … 7 事業

２　令和５年度運動・スポーツ部会からの助言総括

令和５年度の本部会では「重点項目の推進のために何ができるか」をテーマに掲げ検討した。その中で挙がった論点を中心に報告する。

（１）誰もが運動・スポーツを身近な存在であると実感できる取り組み

成果指標である「運動・スポーツを週に１回以上実施している」の実績が 35.2%にとどまってしまったという現状を受けて、誰もが運動・スポーツを身近な存在であると感じて取り組むきっかけづくりを促進する方法を検討した。

ア　「運動・スポーツ」の定義と「運動・スポーツ」の価値や意義の啓発の必要性

厚生労働省のｅヘルスネットによると運動とは、「身体活動のうち、体力の維持・向上を目的として計画的・意図的に実施し、継続性のある活動」としており、その具体例としては、いわゆるスポーツの内容とともに余暇時間の散歩や活発な趣味も運動として定義されている。

区のアンケートの設問の中で具体的な例示がされていないことで、区民が「運動・スポーツ」の定義を狭く捉えてしまっている可能性があると考えられる。散歩や日常生活で積極的に身体を動かす事（例：階段利用、一駅歩き）なども「運動」であることを明確に伝えていく必要がある。これにより国や都との運動実施率の差や35.2%という低い成果指標の結果も異なってくる可能性がある。

アンケートでは、スポーツへの関心のきっかけとして、「学校の授業や行事・部活動の経験」が最も多く、続いて「美容・健康を意識して」が挙がった。例えば、運動をしないことで害する健康リスクについてなど、ネガティブな情報を発信し、そのインパクトが「今、身体を動かしておかなければ」というきっかけになることもあろう。様々な伝え方の工夫で、運動・スポーツをする価値を言語化・見える化することで上手にきっかけづくりに導いてほしい。

イ　自宅や職場でできる運動・スポーツの推進と情報発信の強化

パラスポーツのイベントやパークで筋トレへの参加者数は増加しており、ウ

ォーキングやランニングをしている人もよく見かけるようになった。区民の運動への意識が高くなってきていることを日々の生活の中でも実感することが多くなっており、施策の成果として評価できる。

一方で、今まで取り組んだことのない方が運動・スポーツを始めるためには、どの年代でも誰もが取り組める運動・スポーツの情報がまだまだ不足していると感じる。例えば、車椅子の方だけでなく健常者も座位のままできるスポーツやストレッチなどの紹介は区からの情報の中ではなかなか見当たらない。

生活の中でできる簡単な運動のアイデアを、民間スポーツ施設の指導ノウハウを活かしながら動画やホームページなどで紹介するなど、今まで届きにくかった層への発信力を高めてほしい。

また、参加できる運動・スポーツを探す際には、スポーツ関連イベントを集約したカレンダーやネット上の情報ポータルなどがあるとわかりやすい。必要な情報に触れやすくすることで興味が高まり、参加しやすくなるであろう。

ウ　運動・スポーツに触れるきっかけづくり

過去１年間に運動・スポーツを「観戦した」と回答した割合は 42.1％と低い。

運動・スポーツそのものへの関心を高めるため、区内の身近なヒーローをクローズアップするとよいであろう。さらにその身近なヒーローを日常生活の中で目にする機会を増やしていただきたい。

足立区に縁のあるスポーツ選手の情報を集約するために、区民から情報提供できる工夫を検討して頂きたい。そして様々な機会や媒体を使って彼らの活躍を紹介し、応援・観戦の機会を増やすなど、様々なスポーツに触れられる工夫としてほしい。

（２）身近な場所で運動・スポーツを楽しめる取り組み

成果指標である「運動・スポーツを行っている場所について『自宅』『自宅周辺』『職場』『職場周辺』と回答した方が 69％となっており目標値である 50％を超えていることは評価できる。しかし、週１日以上スポーツしている人が 35.2％と少ないことから、実際に身近な場所で運動・スポーツを行っている人は多いとは言えないだろう。そこで部会としては、下記の点を助言したい。

ア　地域資源「銭湯」を活用したランニングステーションなどの展開

ランニングは散歩とともにニーズが高い運動である。区内で「歩く」「走る」ことへの価値づけとして、観光資源や文化施設を巡るコースを設定したり、活用することで、新たな区の魅力に気づき、より楽しさが広がると考える。

すでに区内のいくつかの銭湯ではランニングステーションとしての利用が可能であるが、あまりその情報は知られていない。区がシティプロモーションとして活用している「銭湯」を活かしたランニングステーションの展開とその広

報を期待する。

また、広い脱衣所を利用したヨガ教室の開催などを組み合わせ「汗を流す」イベントを開催するなど、「銭湯」という地域資源をもっと積極的に運動・スポーツにつなげてみてはどうか。

イ　民間施設との連携の更なる強化

昨年度は、東京ヴェルディ㈱との連携協定による障がい者の運動機会の充実と区民のＪ２サッカー観戦の機会の拡大、それに加えて今年度、新たに民間スポーツ事業者の休館日を活用したプール施設の区民開放を実施したことは評価できる。身近な場所で活動場所をより多く提供するためには、区施設だけではない場所の活用が今後、大きな意味を持つ。

区内には民間のフィットネスジムなども多く点在するので、各施設の休館日利用を工夫するなどし、より多くの方が運動・スポーツに触れる機会を確保していってほしい。

ウ　身近な場所以外を選んで活動している方へのアプローチ

区外であえて活動している方は、区内に求めている運動・スポーツの場がないのではないだろうか。例えば、障がい者は広い駐車場やバリアフリーとなっている施設を遠くとも活動の場に選んでいる。また、施設の設備だけではなく、ソフト面での配慮が行き届くことで、誰もが区内施設を選んで使用してみようというきっかけになるのではないか。利用者目線での身近な場所で利用できる場の拡充を民間施設も含めて検討してほしい。

エ　「健康×ポイント×お買い物」などお得感によるアプローチ

ウォーキングの歩数や健康診断など運動・スポーツや健康に関する行動などで、ポイントがたまるアプリ利用などを検討してはいかがか。獲得したポイントが、区内の店舗などで利用可能となるような工夫を行うことで、運動・スポーツへのモチベーションが高まることを期待する。

（３）「スポーツを通じた共生社会の実現」のための取り組み

令和４年３月にスポーツ庁は、「第３期スポーツ基本計画」を提示し、その中で「スポーツを通した共生社会の実現」を掲げており、東京オリ・パラ大会のスポーツ・レガシーの継承・発展に資する重点施策となっている。足立区では、オランダとの連携により「パラスポーツで社会を変える」を重要テーマとして取り扱っており、今後も継続的な発展に期待したい。

ア　多様な立場の人がスポーツに参加できる環境整備

共生社会の実現として、障がい者、高齢者、子ども、外国にルーツがある人

など誰もが参加できるスポーツ環境を整える必要がある。そのためには、それぞれの立場の方が安心して参加できるよう何に配慮すべきか（例えば、感染症対策が徹底されたイベントや空間も必要）、家族が安心して参加させられるイベントはどうすればよいか、それぞれの事業の企画時には、参加対象者に合わせた運営の工夫をさらに期待する。

イ　ともに楽しむコミュニケーションツールとしてのパラスポーツ活用
～障がい者と健常者がともに汗を流せる機会の提供～

障がい者スポーツのスタートや継続は当事者意欲に左右されることはもとより、参加しやすい環境とサポーターのさらなる協力・充実が鍵となる。

オリンピアン・パラリンピアンの直接指導が受けられる「体験会」の再開やレクボッチャ大会の開催、個人向け障がい者運動教室の開催、学校訪問型パラスポーツ体験事業の実施は大変評価できる。今後は学校教育や学童、放課後子ども教室の中などにも積極的にパラスポーツを取り入れ、誰もが楽しめるコミュニケーションツールとして普及していただきたい。

パラスポーツ体験で覚えた競技を、障がい者とコミュニケーションをとりながら一緒に楽しむことができるようになることが、本当の共生社会の礎をつくるものとなろう。大学連携の試みとして、実際に東京未来大学の学生が障がい者運動教室に参加することで両者ともに楽しむ時間を共有できた。

今後も障がい者や特別支援学校の生徒との交流などの場、障がい者運動教室へのサポート参加などの障がい者と健常者が共に汗を流せる機会を継続してつくれるような検討をお願いしたい。

ウ　合理的配慮や理解、安全に関する知識をもったスポーツ関係者や団体、スポーツボランティアの育成

今後普及が見込まれる部活動指導員をはじめ、地域スポーツの指導者、民間のスポーツの指導者、そしてスポーツ参加者や関係者に対して合理的配慮に関する知識や情報を提供し、スポーツを通じた共生社会を実現するための「支える」人材育成を期待する。その際、ハラスメント防止など、法令遵守を徹底した人材育成が求められる。

また、安全面から、昨今の気候変動を受け、炎天下で行われる事業への熱中症対策などの配慮にも留意できる指導者の育成を期待したい。

エ　スポーツを支える人のインセンティブを検討

審判やスポーツボランティアなど、全て善意に頼るのは限界があるため、インセンティブを検討していただきたい。すでに交通費や図書券などの謝礼は支払われていることが多いが、これらのインセンティブでどの程度、支えるスポーツのモチベーションが高まっているか不確かである。スポーツを「支える」

ことの魅力を高めるとともに、インセンティブのニーズを把握し、インセンティブの金額や内容の工夫などを検討しただきたい。例えば、交通費に加えて、回数に応じて足立区で使用できる商品券や銭湯無料券などがもらえるといった工夫の余地はあるであろう。

（４）３分野連携の実現に向けて

３分野連携事業は、読書・文化・スポーツの３つの計画の共通理念を「楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる」とし、分野間連携を強化しながらつながりをもった計画を立てている。各事業や所管が常に３分野連携を意識していくことで、すでにある資源や施策を有機的に発展することが出来ると考え、以下の点を助言したい。

ア　スポーツ・運動からのアプローチ

スポーツや運動に興味がある方への読書のきっかけとして、スポーツや運動に特化した書籍をすすめてみることを提案したい。その際、図書館に運動・スポーツの特集コーナーを作るだけではなく、体育館や民間のスポーツジムなどに移動図書館などを設置して運動直後に書籍を手にとれるような工夫ができる。また文化・芸術との連携であれば、ランニングマシーンを使いながら映画鑑賞できたり音楽が聴けたりするサービスなども検討可能であろう。

イ　所管同士の連携について

すでにある事業に運動・スポーツの意味を持たせることを提案したい。例えば、危機管理部の「ながら見守り」やビューティフルウィンドウズ運動の青色防犯パトロールも「運動・スポーツ」から見ると「散歩」という側面がある。すでにあるものを「運動・スポーツ」という側面から意味づけを行うことで、既存の事業を活かすことが出来る。

現在の事業一覧に、まだ網羅されていない事業もあるため、情報を把握し、その事業に参加したことで「運動・スポーツ」に自然と参加できたという区民の意識を高めてほしい。

ウ　大学連携

読書をはじめとする学びの連携で、運動・スポーツに関する足立区内の大学の教員の書籍を紹介したり、スポーツのイベントで学びブースとして研修会などの講座を開設したり、運動、文化、読書（学び）に関する大学の公開講座なども併せて紹介することを提案したい。

運動・スポーツ部会長
藤後　悦子（東京未来大学教授）

運動・スポーツ計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	１	運動・スポーツを気軽に楽しむための機会づくり
施策名	１－１	子ども・成人・高齢者・障がい者が運動・スポーツを楽しむためのきっかけづくり
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　スポーツ振興課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

年齢や生活環境、健康状態、障がいの有無等によって取り組みたいと思う、または取り組むことができる運動・スポーツは異なる。こうした状況をふまえ、ライフステージや個々の状況に応じた、きめ細やかな施策・事業を展開する。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	区民のスポーツ実施率								
指標の定義	３計画アンケートにて、運動・スポーツを「週に１日以上実施している」と回答した方の割合【令和３年度実施】								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	35.9%	実績値	35.9%	－	35.2%	－			(50.0%)
目標値（R7）	50.0%	達成率	－	－	70.4%	－			

指標名②	イベント後に運動・スポーツへの意欲が向上した区民の割合								
指標の定義	スポーツ振興課所管イベントの参加者アンケートにて、運動・スポーツを「ほとんどやらない」と回答した方のうち、イベントに参加して運動・スポーツをやりたいと「思った」「やや思った」と回答した方の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	70.7%	86.7%	82.6%	78.3%			(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	－	108.4%	103.3%	97.9%			

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	12	7	1	2	0	4	26
%	46%	27%	4%	8%	0%	15%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値　R4年度未実施

指標②実績値(82.6%→78.3%)はR3年度を下回り、R7年度の目標値(80.0%)も下回った。

【要因分析】

(1) 指標②については、R2・3年度は、コロナ禍によりスポーツイベントが限定的だったため、数少ない機会を発見して参加する方は、必然的に満足度が高くなったと推測される。R4年度は、感染対策が緩和したことでイベント参加が容易となったが、声出し応援などが実施できなかったこともあり、「楽しさ」という点で、運動・スポーツへの意欲向上が図れなかったと推測される。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

(1) コロナ禍で実施できなかったイベント等の再開

ア　イベントや学校における縄跳びチャレンジや持久走の取り組みが、感染対策を講じながら再開された。（例：**小学校持久走の取り組み　R2:76.9%→R4：100%**）。

(2) 様々な年代向け事業や障がい者向けイベントなど多様な対象者へのアプローチ

ア　高齢者向け「パークで筋トレ」の会場平均は前年を下回った（R3：35人、R4：33人）。しかし**コロナ禍前に比べ倍増した参加者は概ね維持できた（H31：13,533人、R4：26,574人）**。

イ　**未就学児対象「親子野球教室」は、応募倍率が約2倍**となった。ほかの親子体験教室の申込も定員を上回った。保護者が参加するメニューを必ず組み込み、子育て世代の運動機会を増やすきっかけづくりに取り組んだ。

ウ　R4年度にスペシャルクライフコートフェスティバルや、**様々なスポーツ体験や定期的なパラスポーツ体験会を実施し、個人向け運動教室やボッチャ広場といった定期的な活動機会に繋げた。**

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

(1) コロナ禍で新たに身近な場で、「一人でも」運動を始めた方の活動の定着を図るため、様々な年代や対象者に向け、参加しやすい企画の工夫を継続していく。

(2) 「健康」や「仲間づくり」といった運動やスポーツから得られるものをPRしていくことで、運動やスポーツを継続していくモチベーションを高め、身近な場所で取り組める事業に誘導していく。

【中長期の取り組み】

(1) 引き続き、どの年代でも身近で気軽に参加できる事業を実施し、参加時に「アドバイス」をするなど次の参加や習慣化につながる工夫を行っていく。

＜評価の反映状況＞評価の反映有無、その理由

(1) 様々な年代に対するイベントを企画した。気軽に参加できる「個人参加型」の事業や、じっくりと指導を受けることができる「体験型」事業の充実に継続して取り組んだ。

(2) 障がい者の運動・スポーツについて、「スペシャルクライフコートフェスティバル」で運動・スポーツの楽しさを伝え、継続して取り組みたい方を「個人向け障がい者運動教室」につなぐなど、きっかけを行動につなげられる仕組みを工夫した。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	3	4

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)「現在の達成状況」への評価

ア　イベント後に運動・スポーツへの意欲が向上した区民の割合が、前年度より下がったことは残念である。より工夫をした事業展開に期待する。

イ　親子体験型の事業で、子どもだけにアプローチするのではなく、運動実施率の低い親世代にも参加の機会を作る工夫は評価できる。

ウ　障がい者の運動・スポーツの機会の拡大のための新規事業の展開は評価できる。

エ　高齢者実態調査によると「コロナ禍で体力や筋力が落ちた」と感じている方が7割いる。介護予防事業のメニューの充実と新規参加者の増につながる対応を期待する。

(2)「今後の方向性」への評価

ア　運動・スポーツの習慣化のために、参加者のモチベーションをたもつために、運動・スポーツ以外のアプローチや、仲間づくりや健康といった別のキーワードを発信するという方向性は、評価できる。

イ　パークで筋トレ参加者に健康づくり関連事業のチラシを配付するなどして、ほかの事業にも継続的な参加につながるよう工夫してほしい。

(3)「評価の反映状況」への評価

ア　コロナ禍で不特定多数の参加イベントが困難な中、「個人参加型」や「体験型」事業を継続したことは評価できる。

イ　障がい者の運動・スポーツについて、体験から継続した運動につなぐ取り組みに着手したことは評価できる。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	―	―	―

5　推進委員会による助言（令和５年８月記載）

(1)「現在の達成状況」への助言

ア　成果指標、活動指標ともに、感染対策の緩和により活動が活発になってきているため、R7年度の目標に近づいていけると思われる。

イ　制限期間中に体力がおちたり外での活動が難しくなった高齢者や障がい者（特に身体）もおり、安心して参加できる感染症対策を継続することで、家族を含む不安を軽減してほしい。

ウ　成果指標②がR3年度を下回ったことや、活動指標となる親子野球教室の参加率の減少や、縄跳びチャレンジが100%の参加とならなかったことは残念である。原因を分析し、開催の工夫などを議論することで、目標達成することを期待する。

エ　成果指標②はイベント参加者の意見であるが、参加できない（していない）方のニーズも探ってイベントを検討する必要があろう。

オ　ウォーキング教室やフレイル予防教室など介護予防事業の参加者が多く、65歳以上の高齢層へのアプローチは成功しており評価できる。一方、運動・スポーツの参加実績が一番低い働き盛り世代、子育て世代の30～40歳代向けの事業が少ないように感じる。

(2)「今後の方向性」への助言

ア　様々な年代や対象者にむけ、参加しやすい企画の工夫をしていく方向性は評価できる。そのためには年代別の課題把握が必要である。年代別データを収集分析し、それを活かす施策に取り組んでほしい。

イ　参加時に「アドバイス」をするなどの習慣化の工夫をしていく方向性は評価できる。例えば、トレーニングでは、理学療法士、アスレチックトレーナー等の専門家の意見や助言を頂ける機会など、大学や民間事業者との連携があると参加のモチベーションが高まるのではと考える。

(3)「評価の反映状況」への助言

ア　高齢者向けの事業ではすべての事業で前年を上回る結果となっており、高齢者の健康維持に貢献していると感じる。

イ　外国籍の方々への情報提供や参加の促し、言語対応などにはまだ課題があると感じる。

6　推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和●年●月記載）

運動・スポーツ計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	１	運動・スポーツを気軽に楽しむための機会づくり
施策名	１－２	だれもが運動・スポーツを「する」「みる」機会の充実
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　スポーツ振興課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

ライフステージ等に応じた運動・スポーツを楽しむ機会の充実だけでなく、世代や障がいの有無を越えて、だれもがともに同じ空間で運動・スポーツに親しみ、楽しみや喜びを共有できる機会を充実させていくことは、人と人との結びつきや地域の絆を形成していくために重要である。

区民のスポーツに対するニーズに応じて、運動・スポーツを「する」だけでなく、「みる」機会の充実を図り、運動・スポーツを通じて多様な区民が交流する共生社会の実現へとつなげていく。

２　成果指標

※R7は目標値

指標名①	運動・スポーツを観戦した区民の割合								
指標の定義	３計画アンケートにて、頻度にかかわらず、過去１年間に運動・スポーツを「観戦した」と回答した方の割合【令和３年度実施】								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	65.9%	実績値	65.9%	－	42.1%	－			(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	－	－	52.6%	－			

指標名②	区民のスポーツ実施率【再掲】								
指標の定義	３計画アンケートにて、運動・スポーツを「週に１日以上実施している」と回答した方の割合【令和３年度実施】								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	35.9%	－	35.2%	－			(50.0%)
目標値（R7）	50.0%	達成率	－	－	70.4%	－			

指標名③	イベント後に運動・スポーツへの意欲が向上した区民の割合【再掲】								
指標の定義	スポーツ振興課所管イベントの参加者アンケートにて、運動・スポーツを「ほとんどやらない」と回答した方のうち、イベントに参加して運動・スポーツをやりたいと「思った」「やや思った」と回答した方の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	86.7%	82.6%	78.3%			(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	－	108.4%	103.3%	97.9%			

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	3	1	0	1	0	5	10
%	30%	10%	0%	10%	0%	50%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①・②実績値　R4年度未実施

指標②、③は再掲（施策1-1）

【要因分析】

（1）指標③については、R2・3年度は、コロナ禍によりスポーツイベントが限定的だったため、数少ない機会を発見して参加する方は、必然的に満足度が高くなったと推測される。R4年度は、感染対策が緩和したことでイベント参加が容易となったが、声出し応援などが実施できなかったこともあり、「楽しさ」という点で、運動・スポーツへの意欲向上が図れなかったと推測される。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

（1）アスリート事業の再開

ア　**オリンピアン、パラリンピアンの直接指導を受けられる「体験会」を再開**し、好評であった。パラリンピアンによるパラトライアスロンで使用した「ハンドバイク体験」、オリンピアンの「走り方教室」、車椅子バスケ元日本代表の「車いすバスケ体験」など、貴重な体験の機会となった。

（2）民間事業者との連携協定に基づくプロサッカーリーグの区民無料・優待招待事業

ア　**令和4年3月に「区民の運動・スポーツに関する連携協定」を東京ヴェルディ㈱と締結し、同年10月にWE（女子プロサッカー）リーグ、令和5年3月にJ2（男子プロサッカー）リーグの区民観戦デーを実施**し、区民の「みる」スポーツの機会の拡大に取り組んだ。

（3）障がい者が参加しやすいスポーツ事業の拡大

ア　**誰もが参加できるスポーツとして、レクボッチャ大会を実施**。障がいの有無、年齢に関わらず、多くの参加者が楽しんだ。また、個人向けの障がい者運動教室を新たに実施した（年10回）。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

（1）イベント参加者に対し、スポーツの楽しさを伝えていくとともに、「みる」スポーツの機会の充実を図ることで、スポーツへの無関心層へのアプローチを広げていく。

（2）令和5年度はサッカーU20、バスケット、ラグビーのワールドカップが実施される。スポーツへの注目が集まる好機を捉え「体験会」などの情報発信のタイミングを工夫し、スポーツへの関心を高めていく。

【中長期の取り組み】

（1）「体験会」には、試合観戦やデモンストレーションを組み込むなど「する」「みる」を体感できる事業を充実することでスポーツを楽しめる機会を充実させていく。

＜評価の反映状況＞評価の反映有無、その理由

（1）「みる」スポーツの充実のために、民間事業者との連携協定によるプロリーグの試合観戦の機会を増やす取り組みに着手した。

（2）障がい者の参加しやすい運動・スポーツ事業の充実を図った。**「障がい者運動教室」は個人向けにも拡大**し、様々な運動体験を提供するだけでなく、令和5年3月には味の素スタジアムへ出向き、そこでの運動体験やサッカーの試合観戦をおこなった。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	3	4

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)「現在の達成状況」への評価

ア　コロナの感染対策が緩み、制限されていた運動・スポーツの機会を取り戻したいと考えた区民に対し、区が行うイベントだけではなく、民間事業者との連携でプロの試合観戦機会をつくることができたことは評価できる。

イ　オリンピックや、パラリンピック、世界大会出場経験者などアスリートとの交流やその技を体感できる機会を活用し、イベントを実施したことは、より区民の運動・スポーツの意欲を高めることができたと推察される。

(2)「今後の方向性」への評価

ア　運動・スポーツへの関心を高める手段として、世界的な大会をきっかけに競技を「みて」知る取り組みを行なおうとする点は評価できる。

イ　『誰もが参加できるスポーツ』としてボッチャに取り組み、障がい者の運動・スポーツの機会の拡充だけではなく、多様なコミュニケーションの一環としてスポーツを活用している点も評価できる。

(3)「評価の反映状況」への評価

ア　民間事業者との連携から様々な活動や「みる」スポーツの充実が図られたことは評価できる。
継続した取り組みとすることで、より多くの区民がプロスポーツの機会に触れ、「やってみよう」という意欲の向上につながることを期待する。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	―	―	―

5　推進委員会による助言（令和５年８月記載）

(1)「現在の達成状況」への助言

ア　東京ヴェルディ（民間）との締結により、イベント参加の拡大、ジュニア期の障がい者スポーツの機会保障、プロの試合観戦機会の確保が可能となり、スポーツのすそ野が広がっている様子が伺え評価できる。

イ　体験会の再開が好評であったことは、今後の取り組みの一つのモデルとなるであろう。区に縁のあるプロスポーツ選手やスポーツチーム・事業者の活躍等を積極的に情報発信してほしい。

ウ　パラスポーツ体験会の実績は目標値の半数以下となっているが、冬場の開催が参加のハードルを上げている可能性があり、開催時期の見直しを検討してほしい。

(2)「今後の方向性」への助言

ア　世界的なスポーツイベントの開催を好機ととらえ、区民のスポーツの関心を高めようとする点は評価できる。

イ　「みる」スポーツの機会拡大として、区民の甲子園や高校サッカーなどの学生スポーツ競技にフューチャーすることは、興味関心を高める一つの方法と考える。

ウ　「みる」スポーツの充実のため、区イベントでは、基本的なルールが理解できる観戦用のリーフレットやパンフレット作成の継続に加え、動画によるPRがあるとより理解が進むであろう。

(3)「評価の反映状況」への助言

ア　障がい者と健常者が一緒に参加できるイベントの開催は障がい者の運動・スポーツの理解へも繋がり評価できる。

イ　パブリックビューイングなど区民が一体となってスポーツイベントを観戦できる場の設置なども検討して頂きたい。

6　推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和●年●月記載）

運動・スポーツ計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	１	運動・スポーツの楽しみを深める場の提供
施策名	１－３	運動・スポーツに関する情報の効果的な発信
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　スポーツ振興課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

施設情報や利用の仕組み、講座やイベント等の情報、総合型地域クラブや競技団体等の運動・スポーツに関する情報を、区民が必要とするときに入手できるよう、よりわかりやすく発信していく。また、運動・スポーツを生活の中で身近に感じることができるようにその意義や効果を、より多くの区民に周知していく。
このほか、ホームページやＳＮＳなどを活用し、情報を充実させていくとともに、各学習センターにおいて、複合施設という特徴を活かし、文化・読書・スポーツに関する情報を、一体的に区民に届けていく。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	運動・スポーツに関心のある区民の割合								
指標の定義	３計画アンケートにて、運動・スポーツに「関心がある」と回答した方の割合【令和３年度実施】								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	70.7%	実績値	70.7%	－	69.9%	－			(85.0%)
目標値（R7）	85.0%	達成率	－	－	82.2%	－			

指標名②	運動・スポーツの機会の充実度								
指標の定義	スポーツ振興課所管イベントの参加者アンケートにて、区が実施している運動・スポーツに関するイベントや教室などについて「とても充実している」「充実している」と回答した方の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	65.8%	61.9%	65.7%			(60.0%)
目標値（R7）	60.0%	達成率	－	109.7%	103.2%	109.5%			

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	2	1	0	0	0	1	4
%	50%	25%	0%	0%	0%	25%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】
指標①実績値　R4年度未実施
指標②実績値（61.9%→65.7%）はR3年度を上回り、R7年度の目標値（60.0%）も上回った。

【要因分析】
(1) 感染対策をとりながら施設利用を継続し、イベントや教室を実施してきたことで、区民の運動・スポーツの機会の充実度を評価されたと推察される。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】
(1) ホームページのアクセス先の変化
ア　ホームページのアクセス数は、前年度に比べ減少した（R3：812,958件→R4：634,330件）.
イ　アクセス数の大半を占めるスポーツ施設へのアクセス数が減少した。コロナ禍に必要であった利用制限やルール変更といった情報収集が減ったことが関係していると推察される。
ウ　**ボッチャ広場や車いすバスケなどパラスポーツ関連イベントや、チラシにQRコードを掲載したイベントのアクセス数が増加した。**
(2) 発行物の工夫による情報発信
ア　チラシは事業内容のわかりやすさを重視し、**写真やルール説明などを盛り込むことで、競技への興味や関心を引き付けるよう工夫**した。
イ　ウォーキングチャレンジでは、ONEDAYウォーキングを企画した。雨で中止となったが、コース上に健康チェックポイントを設けたり、観光交流協会のホームページにつなげ、郷土博物館などの見どころを紹介する情報をマップに掲載しした。問い合わせも多く参加意欲を高めた。
ウ　ONEDAYウォーキング用のマップは、コース近隣の区民事務所や区施設に配架し、地域にPRした。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】
(1) 事業内容とターゲット層に合わせた手法で、一つの媒体に偏らない情報発信方法を工夫する。
(2) 運動・スポーツ以外からの興味・関心をもてるようスポーツを入り口としない情報発信を行うなど、新たな視点と手法を継続して工夫する。

【中長期の取り組み】
(1) 自分にあった運動・スポーツを楽しめるよう、多種多様な運動・スポーツの情報発信につとめる。

＜評価の反映状況＞評価の反映有無、その理由

(1) ウォーキングチャレンジでの参加者プレゼントを区制90周年に合わせて90個に増やすなど、参加者のモチベーションを上げる工夫をおこなった。
(2) チャレンジ期間中にウォーキングイベントを企画するなど、新たな参加者へのアプローチをおこなった。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	4

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　イベント情報を伝えるチラシをみて、ホームページをみた数が伸びていることは評価できる。

イ　施設関連の情報に対するホームページへのアクセス数が減少しているが、発行物やホームページなどの情報発信をきっかけに運動・スポーツの楽しみを伝えられる工夫を期待する。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　一つの媒体に頼らず、ターゲット層によってアプローチを変える手法は評価できる。

イ　楽しさが伝わる、やってみたいという興味や関心を持てる情報発信に今後も期待する。

ウ　ウォーキングチャレンジで作成したマップや、ホームページに掲載したウォーキング教室のコースを印刷して配付するなど、身近でできる運動につながる情報発信を工夫してほしい。

(3)　「評価の反映状況」への評価

ア　昨年度の評価を踏まえ、多くの方が参加したいというモチベーションを高めるための工夫に取り組んだことは評価できる。

イ　当日雨で中止となっても、ホームページで当日実施予定だったマップなどの情報を発信したことは評価できる。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	―	―	―

5　推進委員会による助言（令和５年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への助言

(2)　「今後の方向性」への助言

重点項目外の施策であるため、令和5年度評価（令和4年度実施事業分）は対象外です。

(3)　「評価の反映状況」への助言

6　推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和●年●月記載）

運動・スポーツ計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	２	運動・スポーツの楽しみを深める場の提供
施策名	２－１	身近な場所における運動・スポーツの推進
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　スポーツ振興課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

稼働率の高いスポーツ関連施設を新規利用者にも提供できるよう利用調整などの環境改善を行うだけでなく、自宅や職場など生活に身近な場所で気軽にできる運動・スポーツを推進していく。また、地域での活動やコミュニティの拠点となる学校、区施設、総合型地域クラブと連携し、運動・スポーツをより身近に感じることができる環境づくりに取り組んでいく。

２　成果指標

※R7は目標値

指標名①	身近な場で運動・スポーツを行う区民の割合								
指標の定義	世論調査にて、運動・スポーツを行っている場所について「自宅」「自宅周辺」「職場」「職場周辺」と回答した方の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	72.2%	75.2%	69.0%			(50.0%)
目標値（R7）	50.0%	達成率	－	144.4%	150.4%	138.0%			

指標名②									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	5	0	0	0	0	1	6
%	83%	0%	0%	0%	0%	17%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（75.2%→69.0%）はR3年度を下回ったが、R7年度の目標（50.0%）を上回った。

【要因分析】

(1) コロナ禍の影響で、自宅でのリモート業務などが増加していたR2・3年度には、自宅周辺での活動に増加傾向がみられたが、令和3年度と比べ自宅や職場周辺で取り組む人は、6.2ポイント減少した。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

(1) スポーツ施設運営、学校開放事業の中止のない実施

ア　令和4年度は3年ぶりに新型コロナ感染拡大防止のための**施設、学校開放事業の中止が一度もない年**となった。 感染対策のために人数制限等は継続したが、学校開放事業等により身近なところで運動・スポーツを行える場の提供を実施できた。

(2) パラスポーツイベントの増

ア　定期的に実施する「パラスポーツ体験教室」「ボッチャひろば」「障がい者運動教室」が定着し、障がい者も含めたパラスポーツの体験の場が拡充された。

(3) 年代に応じた身近な場所における運動・スポーツ事業の実施

ア　**パークで筋トレ**については、令和6年度までに40箇所の会場開設を目指している。**令和4年度には2か所開設され36か所**となった。多くの地域に開設されたことで、多くの方が身近で気軽に参加できる場が確保された。

イ　区スポーツ施設での「スポーツ広場」の実施など、身近なところでできる運動・スポーツのきっかけとなる場を提供した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

(1) 誰もが気軽に取り組め、運動の習慣化につながるウォーキングやパークで筋トレといった身近な場所を活用した事業を質の向上を含め充実していく。

(2) 誰でも安全に利用できる施設運営や事業実施に取り組んでいく。そのための施設管理者や指導者の安全管理意識を高めていく。

【中長期の取り組み】

(1) 区スポーツ施設の整備・維持とともに、民間スポーツ事業者との連携を含め、より運動・スポーツを身近に楽しめる場の新たな提供や事業展開に取り組んでいく。

＜評価の反映状況＞評価の反映有無、その理由

(1) **令和5年度に大谷田地域（予定）にボールが使える公園を開設する見込みとなった。**

(2) 安心して身近な場所での活動ができるよう、**パークで筋トレの指導員講習会を実**施した。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	3	4

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)「現在の達成状況」への評価

ア　一度活動から離れてしまった区民や、興味や関心が持てない区民に対する「きっかけ」づくりのための「体験の場」が多く展開されたことは評価できる。

イ　コロナ禍では、運動・スポーツの場も限られていた半面、仕事の取組み方も変わっていて、自宅で過ごす時間が多かった。活動の制限が緩和されたことにより、自宅やその周辺で運動していた時間がもとに戻ってしまった可能性がある。短時間でも簡単に取り組める運動・スポーツが習慣化するような事業展開の工夫に期待する。

(2)「今後の方向性」への評価

ア　身近な場所で気軽に参加できる運動・スポーツ活動事業を活動内容も含め充実させていく方向性は評価できる。

イ　民間活用も含めた新たな事業展開をさらに検討を深めてほしい。

ウ　パークで筋トレの指導者の質の向上に取り組んでみてはどうか。検討してほしい。

(3)「評価の反映状況」への評価

ア　周辺住民等の理解を得て、ボールが使える公園が開設できる見込みとなったことは評価できる。

イ　パークで筋トレは、公園活用の代表的な活動となった。今後も多くの高齢者の参加のため、指導内容を充実させる対応は評価できる。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	―	―	―

5　推進委員会による助言（令和５年８月記載）

(1)「現在の達成状況」への助言

ア　身近な場所で運動・スポーツを行っている方の割合が前年より6ポイントほど下回っているが、目標の50%は毎年上回っているので、引き続き70%前後の水準維持を期待する。

イ　気軽に参加できる事業が多く展開されていることで約7割の方が身近な場所で運動・スポーツができていることは評価できる。

ウ　パラスポーツのイベントは増加しており、評価できる。パークで筋トレへの参加者、ウォーキングやランニング実施者もよく見かけるようになり、区民の健康への意識の高まりが実感できる。

(2)「今後の方向性」への助言

ア　身近な場所を活用した事業について、質の向上を含めた充実に取り組む点は評価できる。

イ　民間事業者との連携を強化する方向性は評価できる。場の提供、指導者の質の向上にも専門的な対応ができる民間事業者が大きなちからとなる。もっと活用できる工夫に注力してほしい。

ウ　身近なところで実際に活動するパラスポーツの選手の試合やトレーニングの様子を区内で見られる機会（練習試合や公開練習など）を設定することで、身近な場所でもここまでできることを実感できると思われる。区内施設の活用、イベント企画に取り入れてほしい。

(3)「評価の反映状況」への助言

ア　ボールが使える公園が令和5年に設置予定となったことは評価できるが、このペースで目標の令和7年に4つのエリア全てに設置できるのかが疑問である。

イ　パークで筋トレのように定期的な活動が、区民の身近な運動・スポーツ活動を支えている。天候などで途切れることがないよう回数を増やすなどの工夫ができないか検討して頂きたい。

6　推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和●年●月記載）

運動・スポーツ計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	２	運動・スポーツの楽しみを深める場の提供
施策名	２－２	協働・協創による他分野との連携の仕組みづくり
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　スポーツ振興課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

運動・スポーツだけでなく文化活動や体験・学習を行うことができる複合施設であるという地域学習センターが区内に13館あるという強みを生かし、文化・読書分野と連携し、運動・スポーツへの関心喚起、活動の実施につながる様々な取り組みを推進していく。

また、庁内の他部署、民間団体や事業所など、運動・スポーツ分野だけでなく、他分野との連携を積極的に推進していく。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	運動・スポーツに関心のある区民の割合【再掲】								
指標の定義	３計画アンケートにて、運動・スポーツに「関心がある」と回答した方の割合【令和３年度実施】								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	70.7%	実績値	70.7%	－	69.9%	－			(85.0%)
目標値（R7）	85.0%	達成率	－	－	82.2%	－			

指標名②	３分野連携事業への参加により、新たに運動・スポーツを始めた区民の割合								
指標の定義	３分野連携事業の参加者アンケートにおいて、「定期的ではないがスポーツをしています。」以上を選んだ区民の割合 ※行動変容ステージモデル…「無関心期」「関心期」「準備期」「実行期」「維持期」で構成								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	44.6%	55.1%	42.6%			(50.0%)
目標値（R7）	50.0%	達成率	－	89.2%	110.2%	85.2%			

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	1	1	1	0	0	0	3
%	33%	33%	33%	0%	0%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値　R4年度未実施

指標②実績値（55.1%→42.6%）は、R3年度を下回り、R7年度の目標値（50.0%）も下回った。

【要因分析】

(1) 指標②については、興味関心をもった区民への働きかけが継続的な参加までつながらなかったことが要因と考える。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

(1) 地域学習センターを中心とした３分野連携事業の実施

ア　「ちょいスポ」事業のメニューが増加し、スポーツに興味のなかった方が自然に運動やスポーツを受け入れて取り組む結果につながった。特に運動実施率の低い、子育て世代へのアプローチは、日常の生活サイクルの中で子どもと一緒に気軽に参加できる活動として、スポーツのきっかけになっている。

(2) 民間事業者や他所属との連携事業の中での他分野連携

ア　東京ヴェルディ㈱連携事業の一つとして、令和5年3月に味の素スタジアムでJ2（男子プロサッカー）リーグ「足立区民観戦デー」が実施され、区内和太鼓団体にエントランスにおける演奏を披露してもらった。スポーツ観戦にきた区民が、会場で他分野で活動する団体の活動を目にし、演者もスポーツ観戦を通じた交流をすることで、スポーツや文化の楽しさを相互に感じる機会となった。

イ　ウォーキングチャレンジを衛生部の糖尿病月間キャンペーンと同時期に実施。「食」と「運動」で健康を意識するよう、双方のチラシにお互いの情報を掲載するなどした。また、観光交流協会との協力でONE DAYウォーキング用の見どころマップを作成した。

ウ　パークで筋トレ会場で、参加者向けに「栄養」「防犯」などのチラシ配布とミニ講座をおこなった。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

(1) 運動・スポーツを入り口としないアプローチから、自然に運動・スポーツに取り組める「ちょいスポ」の考え方を生かし、事業構成や情報発信の工夫に取り組む。

(2) スポーツを通じた共生社会の実現のためにパラスポーツを推進する。そのために福祉部、教育委員会などの関係部署との連携、パラスポーツに関する協働・協創パートナーとのつながりを広げる。

【中長期の取り組み】

(1) 民間事業者との連携により、民間事業者が持つ施設やノウハウ、スタッフなどの活用についても積極的に取り組み、区民ニーズに広く応えていく。

＜評価の反映状況＞評価の反映有無、その理由

(1) ウォーキング教室のコースに「橋を見る」「銭湯を訪ねる」といったテーマのコースを設定し、好評を得た。**好評だったコースは、マップを作成し、ホームページの「ウォーキングマップ」に追加掲載をおこなうよう対応している（R4コースは作成中）**。

(2) **民間スポーツ事業者の施設の休館日を借り上げ活用する事業について、令和5年度の予算に反映し、実施予定となった（民間プール活用事業）。**

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	3

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　地域学習センターにおける「ちょいスポ」の取組みは、運動実施率の低い世代に有効な取組みであり、今後の展開に期待する。

イ　サッカー試合会場で文化団体の活動披露の場を生み出し、スポーツや文化の楽しさを相互に認識する機会としたことは評価できる。今後も、スポーツイベントの場に、ほかの分野の活動を取り入れることで、相互理解や新しい気づきが生まれることを期待する。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　スポーツ分野だけではなく他の分野の情報や視点を加えることで、より多くの区民が興味をもって事業参加ができるようにした工夫は評価できる。

イ　スポーツを通じた共生社会の実現に、関係する所管課が連携し、事業展開をすることは評価できる。

ウ　ウォーキング事業とパークで筋トレ事業の連携等、更なる工夫で参加者に運動の楽しさを広く伝え新たな活動につなげてほしい。

(3)　「評価の反映状況」への評価

ア　民間施設の活用事業といった新たな取り組みをおこない、区民の運動・スポーツの機会を拡充するだけでなく、民間事業者の持つノウハウやスタッフを活用することで、他の事業への展開が期待される。実施結果を分析し、今後につなげてほしい。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	―	―	―

5　推進委員会による助言（令和５年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への助言

ア　３分野連携の協創推進事業参加者が倍増していることは評価できる。一方で、新たに運動・スポーツを始めた区民の割合が目標値に届いておらず、前年値を下回る結果となっていることは３分野連携事業の成果指標として問題であり、今後は参加に繋がるような取り組みやスポーツ観戦を促すなどの工夫でスポーツ参加意欲の向上に期待する。

(2)　「今後の方向性」への助言

ア　区内事業者との協働や連携の方法として、場の提供だけではなく、人材の発掘、育成を推進することも視野に入れ、事業を広げてほしい。

イ　連携先として、民間事業者だけではなく、区内にある都施設（東京武道館、舎人公園陸上競技場、東綾瀬公園）との連携、情報交換による相乗効果を狙った取り組みも検討してほしい。

(3)　「評価の反映状況」への助言

ア　ウォーキング教室のテーマ設定など、好評だった事業をより強化し展開していることは評価できる。

イ　民間スポーツ事業者の施設借り上げについて令和5年に実施されることになり評価できる。夏場のプールだけではなく、ジムやスタジオの借り上げ等も含めたさらなる展開を期待したい。

6　推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和●年●月記載）

運動・スポーツ計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	３	運動・スポーツをささえる人材の育成と活躍の場の創出
施策名	３－１	運動・スポーツをささえる組織の支援と連携強化
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　スポーツ振興課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

体育協会やスポーツ推進委員会など、運動・スポーツをささえる組織を支援し、運営基盤を強化していく。また、地域において組織として期待される役割を意識共有し、組織間の交流を促すなど、連携強化に努めていく。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	関係団体との連携事業の実施回数								
指標の定義	「体育協会」「スポーツ推進委員」「総合型地域クラブ」のスポーツ関係団体のほか、民間企業などとの連携により実施した事業の実施回数（※　定義時には、実施回数とあるが、数値は事業数）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	24回	実績値	24回	8回	10回	16回			(35回)
目標値（R7）	35回	達成率	－	22.8%	28.6%	45.7%			

指標名②									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	3	1	0	0	0	0	4
%	75%	25%	0%	0%	0%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（10回→15回）R3年度を上回ったが、R7年度の目標（35回）を下回った。

※　区主催事業、各団体、民間企業への委託事業は連携活動に含まない。

【要因分析】

(1) 共催イベントが再開されたが、スポーツ推進委員が協力して実施する地域における運動会などの大型事業が再開しておらず、年間の目標値に達していない。

(2) 令和4年度から、民間連携事業「足立区民観戦デー」として、WE（女子プロサッカー）リーグ、J2（男子プロサッカー）リーグの試合観戦を開始した。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

(1) スポーツ推進委員による出前事業の実施

ア　学校や町会等地域団体など地域の要望に応じて、**スポーツ推進委員がパラスポーツの体験教室を実施**し、普及に努めた**（学校6校9回、町会等地域団体8回、住区センター1回）**。昨年度の体験後、活動を継続している地区対策委員会もあるなど、身近にできる運動・スポーツ活動の定着に寄与した。

(2) 体育協会加盟団体による大会実施

ア　コロナ禍の影響により中止となっていた**区民大会が再開**され、日頃の練習や活動の成果を発揮する場が確保されたことで、より運動・スポーツへの意欲が高まった**（28競技、参加者8,149人）**。

(3) 総合型地域クラブにおける地域スポーツの実施

ア　感染拡大防止のための中止がなかったことで、様々なメニューの事業を実施できた（131事業、参加者36,276人）。また、令和4年度から、委託事業として**パラスポーツ体験事業メニューを加え**、パラスポーツの普及に寄与した**（4団体、36回）**。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

(1) 障がい者も含め、誰もが身近なところで運動・スポーツに取り組めるよう、さらに区内団体の活動の活性化と環境を整えていく。

(2) 民間事業者との連携により、より多くの運動・スポーツに触れる機会の創出を図っていく。

【中長期の取り組み】

(1) 区に関連するスポーツ関係団体や民間事業者、パラスポーツ活動における協働・協創パートナーなど相互の情報交換や相互交流を図る機会を提供し、ネットワークづくりに注力する。

＜評価の反映状況＞評価の反映有無、その理由

(1) 令和4年度から開始した総合型地域クラブに対する「パラスポーツ体験」委託事業を継続している。

ア　スポーツを支える組織として、活動するメンバーの意識を高めるため、スポーツ推進委員会、体育協会として**研修を実施（コンプライアンス、熱中症対策、パラスポーツイベントボランティア経験者の講話**など）。より安全に、配慮ある指導を目指した。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	3

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　地域におけるスポーツイベントなどでの相互交流だけではなく、スポーツを定期的に身近な場所で日常の習慣化につなげることも区民の健康維持の観点では大切である。

イ　学校や町会等地域団体に対するアウトリーチ事業は、身近にできる運動・スポーツ活動の定着に効化的であり、その活動の広がりに今後も期待する。

ウ　地域団体のみならず、民間事業者との連携事業を開始するなど、区民の運動・スポーツの機会拡大に取り組んだことは評価できる。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　区内関係団体だけではなく、民間団体にまで連携先を広げ、区民の運動・スポーツの機会の拡充に取り組む方向性は評価できる。

イ　様々な関係団体が情報を共有することで、地域における課題の共有や新たな取り組みのアイデアが生まれるなど、誰でも楽しめるスポーツの機会の提供に団体が果たす役割を意識した活動につながることを期待する。

(3)　「評価の反映状況」への評価

ア　地域スポーツを支える総合型地域クラブで「パラスポーツ」に取り組む事業が継続されることは、共生社会構築への基礎づくりとして効果的である。

イ　スポーツ関係団体相互で、スキルアップのための研修に参加できるようにする工夫は評価できる。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	―	―	―

5　推進委員会による助言（令和５年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への助言

(2)　「今後の方向性」への助言

重点項目外の施策であるため、令和5年度評価（令和4年度実施事業分）は対象外です。

(3)　「評価の反映状況」への助言

6　推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和●年●月記載）

運動・スポーツ計画　施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	３	運動・スポーツをささえる人材の育成と活躍の場の創出
施策名	３－２	運動・スポーツをささえる人材の育成とマッチング
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　スポーツ振興課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

運動・スポーツを通して人と人とのつながりや、地域のコミュニティを醸成していくために、区民の運動・スポーツをささえていく多様な人材の育成支援に取り組んでいく。
また、地域のニーズを把握し、こうした運動・スポーツをささえる人材が、適切な場で活躍できるようマッチングする仕組みを整えていく。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	運動・スポーツをささえる活動を行った区民の割合								
指標の定義	３計画アンケートにて、過去１年間に運動・スポーツをささえる活動をしたことが「ある」と回答した方の割合【令和３年度実施】								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	16.8%	実績値	16.8%	－	11.4%	－			(35.0%)
目標値（R7）	35.0%	達成率	－	－	32.6%	－			

指標名②	スポーツボランティアの地域イベントへの協力人数								
指標の定義	運動・スポーツをささえる活動に従事した「公認スポーツボランティア」「障がい者スポーツボランティア」などの延べ従事人数								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	0人	297人	479人			(820人)
目標値（R7）	820人	達成率	－	0.0%	36.2%	58.4%			

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	3	2	0	0	0	0	5
%	60%	40%	0%	0%	0%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】
指標①実績値　R4年度未実施
指標②実績値（297人→479人）はR3年度を上回ったが、R7年度の目標値（820人）を下回った。

【要因分析】
(1) 指標②はR4年度、コロナ対策緩和により参加可能のイベントが増加したことに伴い、活動をささえる人数も増加し、昨年度を上回った（例．パラスポーツ体験会、レクボッチャ大会、ボッチャ広場等）。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】
(1) 障がい者福祉サービス事業者や特別支援学校へのアウトリーチ
ア　あだちスポーツコンシェルジュがパイプ役となり、**区内事業者等へのアウトリーチ（出前事業）に初級障がい者スポーツ講習会受講者を5回11人派遣した（特別支援学校、障がい者施設）。**
(2) 定期的なパラスポーツ体験会への協力
イ　総合スポーツセンターが自主事業として行う「スペシャルクライフコートパラスポーツ体験会」にスポーツ推進委員が従事することに加え（年24回）、**「ボッチャ広場」の運営を初級障がい者スポーツ講習会終了者で開始した（年10回）。**定期的にパラスポーツ体験指導や障がい者のサポートをすることで、ささる人材の活躍の場を広げ、スキルアップにつなげている。
(3) 指導者のための研修の充実
ア　体育協会やスポーツ推進委員に対する研修等については、様々な運動・スポーツ指導に携わる個人や団体にも情報を展開し、希望者が受講できるように工夫した。
令和4年度は、熱中症対策アドバイザー、コンプライアンス研修、オランダ連携事業の講演会を実施。競技力向上以上に必要なスキルとして、安全や配慮ある指導、共生社会への理解に役立てた。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】
(1) ささえる人材の活動の場を拡充し、パラスポーツをはじめとする誰もが取り組める運動・スポーツの普及に取り組む。
(2) スポーツイベントの受付のような対人的なスキルや、指導補助などこれまでの経験を生かす様々な活動の場を創出することで、より多くの人材の参加とスキルアップを図っていく。

【中長期の取り組み】
(1) 組織の垣根を超えた連携と、安全に配慮できる専門的な指導者育成と活躍の場を検討する。また、指導者の安全に対する意識向上のための研修を実施し、団体相互で情報を共有化していく。

＜評価の反映状況＞評価の反映有無、その理由
(1) あだちスポーツコンシェルジュが核となり、障がい者だけではなく、健常者グループへのパラスポーツのアウトリーチを実現させた。
(2) 体育協会が主催する研修に、スポーツ推進委員、総合型地域クラブの指導員、パークで筋トレの指導員などに声掛けをし、ともに学ぶことができた。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	3

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)「現在の達成状況」への評価

ア　「ボッチャ広場」のような、支える人材が定期的な活動の場を新たに開始したことは評価できる。

イ　支える人材に対し、より多くの研修や講習会に参加してもらえるよう工夫し、スキルアップに努めていることは評価できる。

ウ　任意の参加となる研修と必須のものを切り分け、より安全に運動・スポーツの指導や、障がい者のスポーツをささえるためのスキルを身につけられる仕組みを工夫してほしい。

(2)「今後の方向性」への評価

ア　経験を活かした活動とイベント受付など経験がなくてもできる活動の場を確保し、様々な関わり方でより多くの方に参加してもらおうとする工夫は評価できる。

イ　指導者育成について、「安全」の視点で取り組みを開始したことは評価できる。競技技術以外の安全管理などのスキルをどのように判断するか、育成制度の再構築に期待する。

(3)「評価の反映状況」への評価

ア　ささえる人材の活動の場を定期的につくり、スキルアップに取り組む姿勢は評価できる。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
―	―	―	―

5　推進委員会による助言（令和５年８月記載）

(1)「現在の達成状況」への助言

ア　スポーツボランティアの活動延人数はR3年と比較し増えてはいるが、イベント数が増加したことによる増加となる。登録者人数がR3年、R4年とも126名と横這いなので、今後目標の170名に向けた活動を期待する。

イ　指導者向けの研修の場が充実しており、希望者が受講できるように工夫していることは評価できる。

ウ　放課後＋oneの参加校が目標の67校に対し、50%にも達していないので、達成は難しいように思える。感染対策も緩和されたので、巻き返せるよう普及活動に注力してほしい。

(2)「今後の方向性」への助言

ア　イベント受付業務など、未経験者でも参加しやすい活動の場の提供は評価できる。

イ　都や近隣の自治体との情報の共有が必要である。区にはない施設やイベント、クラブチームなどを紹介し、区外での経験をつむことで、区内のスポーツをささえる人材育成につなげてほしい。

ウ　「ささえる」ことを継続的に行うためには、有償ボランティアとして活動する際の待遇面の改善や保証を期待する。

エ　元気な高齢者が増えているので、その方たちのボランティア活動の推進を図ってはどうであろう。

(3)「評価の反映状況」への助言

ア　スポーツの区民ニーズがつかめるため、アウトリーチは積極的に継続していって欲しい。

6　推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和●年●月記載）